TAKASAGO

高砂香料工業株式会社
〒144-8721 東京都大田区蒲田 5-37-1
ニッセイアロマスクエア 17F

お問い合わせ先
TEL：03-5744-0511（代表） FAX：03-5744-0512
URL：http://www.takasago.com
E-mail：TIC@takasago.com

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council
FSC

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing Naturally

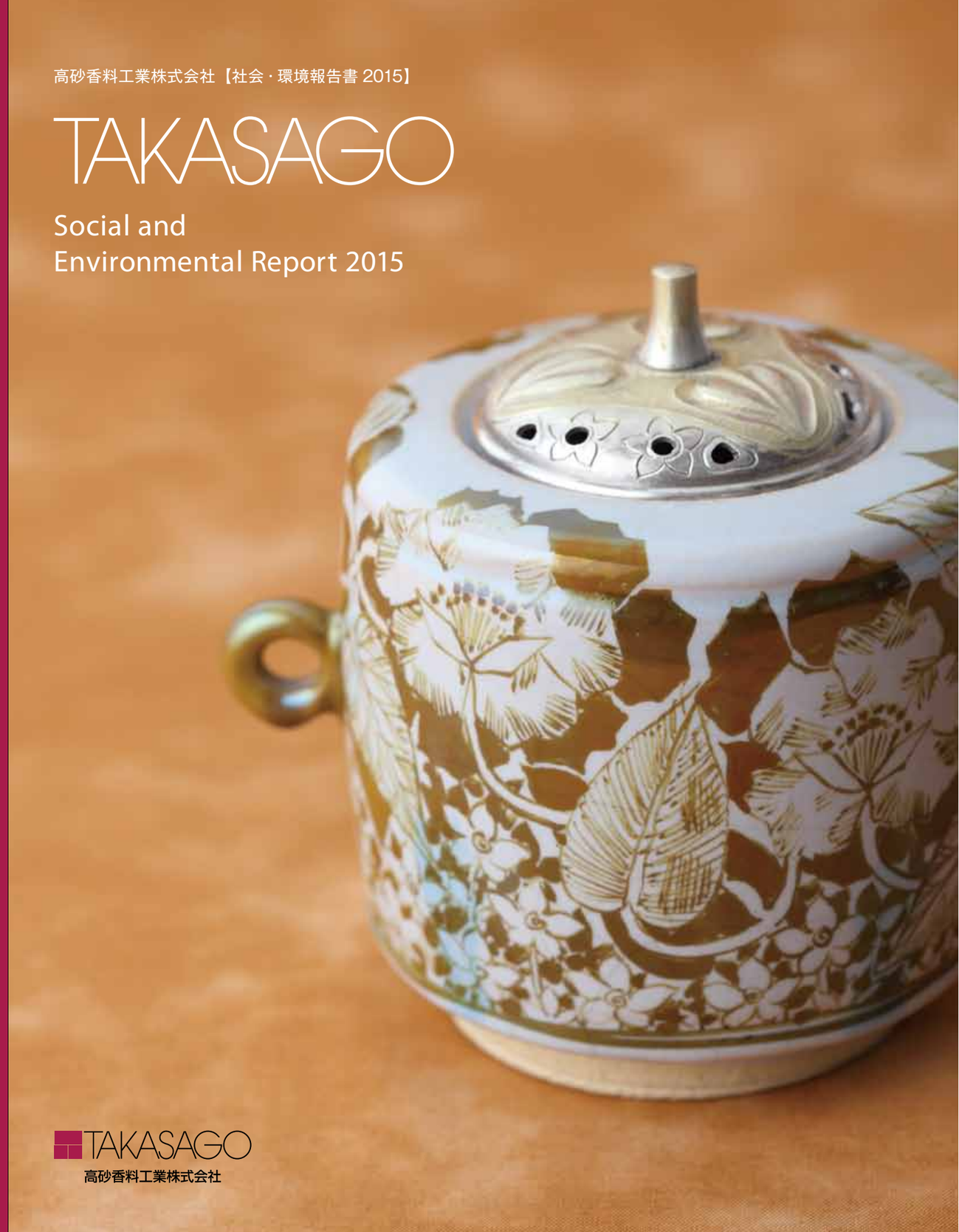
本冊子は、FSC 森林認証紙を使用して、溶剤を含む湿し水が不要の水なし印刷方式で印刷しています。

TAKASAGO Social and Environmental Report 2015 高砂香料工業株式会社【社会・環境報告書 2015】

高砂香料工業株式会社【社会・環境報告書 2015】

TAKASAGO

Social and Environmental Report 2015



TAKASAGO
高砂香料工業株式会社

安全・安心な製品を通じて、豊かな生活づくりに貢献します。

高砂香料グループは、香料技術の最先端の研究を続けてまいりました。
技術と安全・安心の融合により、生活にゆとりと
うるおいをもたらす香料を創り出しています。
人や社会、地球環境との調和を図りつつ、香料やファインケミカル分野の
製品で、お客様、株主・投資家の皆様、お取引先様、従業員等、
ステークホルダーの皆様とともに成長する企業を目指します。

編集方針

高砂香料グループは2003年度から「環境報告書」の発行を開始し、さらなる誌面の充実を目指して2012年度からは「社会・環境報告書」と名を改め情報公開に努めております。

2015年度の「社会・環境報告書」では、高砂香料グループが社会の一員として持続可能な社会の実現に現在どのようにかかわり、未来に向けてどのように貢献していけるか、従業員の考えをステークホルダーの皆様と共有できるような内容を目指しました。

表紙について

見る角度によりさまざまな色を見せ、輝きを放つこの香炉は、かつて古代ペルシアで盛んに用いられながら衰退していき、一度はこの世から消えたものの、500年の時を経て再現された技法でつくられました。皆様の暮らしを豊かな香りで彩り満たしていきたいという想いをこのラスター彩に重ね、表紙に選びました。

［ラスター彩花文香炉］ 加藤卓男作　高さ 12.8cm

金と青のラスター彩香炉。大きな葵様の花と小さなジャスミンの花の文様がデザインされている。銀製の火屋は遠藤兆映の作品。

加藤卓男(1917年ー2005年)は岐阜県生まれ、五代加藤幸兵衛の長男。ペルシャ陶器の研究に取り組み、滅び去った幻の名陶ラスター彩の再現に成功した。また正倉院三彩の復元事業に参加し「三彩鼓胴」「二彩鉢」を完成させた。1995年重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。

■ 報告対象期間
2014年4月～2015年3月(一部最新のデータを含む)

■ 報告対象組織
高砂香料工業株式会社およびグループ会社

■ 実績データ集計範囲
2014年4月～2015年3月

■ 参考にしたガイドライン
GRIガイドライン

■ 次回発行時期
2016年9月を予定

CONTENTS

高砂香料グループ　会社概要 …… 4

トップメッセージ …… 6

特集 …… 8
研究者たちが描く2050年の香料の世界、持続可能な社会に向けたチャレンジ。

TOPICS …… 13
高砂香料国内グループ拠点における「安全の日」活動報告

CSRマネジメント …… 14

高砂香料グループの
EHS100(中長期計画)の取り組み …… 18

社会性報告 …… 20

環境報告 …… 28

国内外製造拠点・事業所での
社会貢献活動報告 …… 32

高砂香料グループの「社会・環境報告書2014」に
関するアンケート結果について …… 39

高砂香料とステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのために

高砂香料では、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、
当社の活動への理解をより深めていただくために、さまざまなツールによる情報発信に努めています。
より詳細な社会・環境活動やデータはウェブサイトでご紹介しています。

社会・環境報告書
（年1回）

会社案内

高砂香料工業　ウェブサイト
随時更新
http://www.takasago.com/

The TAKASAGO
Times

香りの文化をつたえるため本社受付横に設けた「高砂香料コレクション」展示スペース
http://www.takasago.com/ja/museum/index.html

高砂香料グループ会社概要

高砂香料グループは、高砂香料工業、子会社 35 社および関連会社 2 社を有し、世界 28 の国と地域において、フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエンツ、ファインケミカルの製造・販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する研究開発も進めています。

2015年 3月現在

EMEA※

従業員数 …… 501 名

売 上 高 …… 201 億円

主要事業　フレーバー／フレグランス／アロマイングリディエンツの製造・販売

※ EMEA：ヨーロッパ、中東およびアフリカ（Europe, the Middle East, and Africa）

アジア-パシフィック※

従業員数 …… 611 名

売 上 高 …… 201 億円

主要事業　フレーバー／フレグランスの製造・販売およびアロマイングリディエンツの販売

※ アジア - パシフィック：アジア太平洋地域（Asia Pacific）

日　本

従業員数 …… 1,428 名

売 上 高 …… 643 億円

主要事業　フレーバー／フレグランス／アロマイングリディエンツ／ファインケミカルの製造・販売および不動産賃貸／他サービス業

米　州

従業員数 …… 633 名

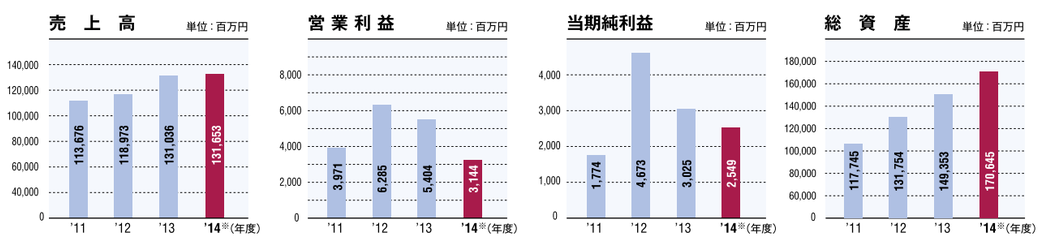
売 上 高 …… 270 億円

主要事業　フレーバー／フレグランスの製造・販売およびアロマイングリディエンツ／ファインケミカルの販売

会社概要

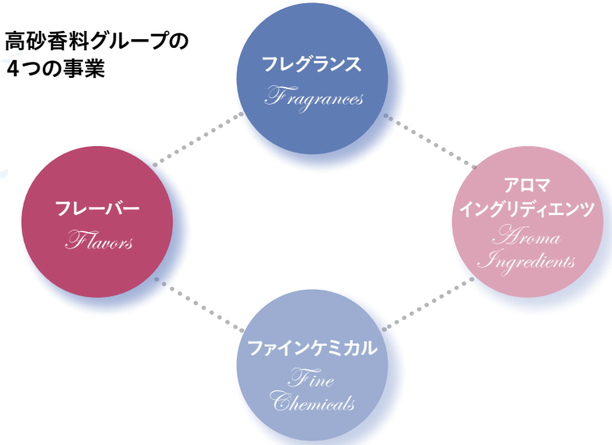
会 社 名	高砂香料工業株式会社　TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION
本　　社	〒 144-8721 東京都大田区蒲田 5 丁目 37 番 1 号
設　　立	1920（大正 9）年 2 月 9 日
資 本 金	92 億円
従業員数	高砂香料グループ　3,173 名 ／ 高砂香料工業（単体）　1,024 名

■ 業績ハイライト

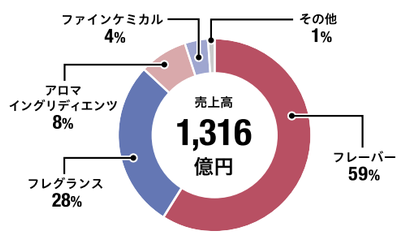


※14 年度 = 15 年 3月期

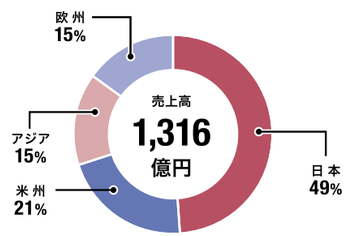
■ 高砂香料グループの 4つの事業



■ 2014年度 事業別売上高



■ 2014年度 地域別売上高



香料開発で培った技術を多彩な分野に展開し、世界中の人々のクオリティ・オブ・ライフの向上と持続可能な社会づくりに貢献します。

高砂香料工業株式会社
代表取締役社長　榊村　聡

すぐれた製品開発を通じて「社会全体のクオリティ・オブ・ライフ」を追求します

天然原料だけに依存していた時代は、香料は極めて高価で、一部の人だけが愉しめる希少な存在でした。化学合成の進歩によって、高貴な香りが化粧品や食品などに広く利用されるようになり、今では多くの人々の暮らしを彩っています。1920 年に当社が設立されたのも合成香料の国産化が目的でした。以来、有機合成・触媒・バイオをはじめ分析・創香・製剤など香料にかかわる幅広い領域で技術革新を重ね、現在では世界第 5 位の香料メーカーとして、飲料・食品、香水・化粧品などに豊かな香りや風味を提供するとともに、コア技術を応用して医薬中間体や電子工学の分野へも独創的な機能性材料を提供しています。

時代や社会のニーズに応える中で高砂香料グループの事業領域は拡大してきましたが、根底に流れるポリシーは一貫しています。それは「すぐれた製品を通じて社会全体のクオリティ・オブ・ライフを追求すること」であり、それこそが「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という企業理念の実践です。世の中の価値観が移り変わろうと、この考え方は不変で、それこそが持続可能性の本質につながるものと私は考えています。

「グリーンケミストリー」の考えのもとものづくりプロセスの環境負荷を最小限に

当社の香料原料は、天然資源とともに、石油化学原料由来の資源も少なからず使用しています。天然資源の中には枯渇が懸念される種もあることから、再生可能な天然資源を活用し、生物多様性保全に配慮した開発を行っております。また、石油化学原料を用いている香料原料に関しては、持続可能社会の実現のため、食料資源と競合しない配慮とともに再生可能な原料への代替を進めております。一方で、微生物発酵などのバイオ技術によるナチュラル素材の開発にも注力しています。

同時に、各国・地域の高砂香料グループ会社では、資源循環型の生産システムに向けた植物原料の育成支援、生態系の保全プロジェクトへの参画、希少植物の香り成分の分析・保存などにも積極的に取り組んでいます。

一方、製造工程では独自の触媒技術により、生産プロセスの短縮や原料の削減をするとともに、触媒を製品化して幅広い業種に供給し、お客様の省資源・省エネルギーにも寄与しています。さらに 2014 年には、フロー連続装置を導入し、製造工程における安全確保と効率化および環境負荷の低減を図りました。そして、植物由来の廃棄物のたい肥化、溶剤などの回収・再使用なども推進し、排出物量の削減に努めています。

当社は持続可能社会の実現への貢献を目指して、今後も入口から出口までの管理を徹底し、生態系や大気・水・土壌などの環境影響を最小限にとどめ、「グリーンケミストリー」を推進します。

地域社会から歓迎されるグローバル企業を目指しCSR 経営の基盤となる「EHS100」を推進

高砂香料グループは「Environment（環境）、Health（健康・衛生）、Safety（安全）」を CSR 経営の基盤と位置づけ、2008 年に「EHS 宣言」を公表しました。そして、創業 100 周年を迎える 2020 年に向けた中長期計画「EHS100」を策定し、各分野で 3 年ごとに目標を設定して取り組んでいます。

「EHS100」の推進にあたってはマネジメントの強化に注力し、フェーズII（2012～14 年度）までに世界各国・地域の主な事業所で、品質管理（ISO9001）、環境管理（ISO14001）、検査・分析（ISO/IEC17025）、食品安全（FSSC22000）などの国際規格の認証を取得しました。

フェーズ III（2015 ～ 17年度）では、各生産拠点で労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001 の認証取得を加速していきます。

私は企業の持続的な成長には、地域に密着したマーケティングと開発・生産によって多様化するニーズに迅速・的確に応えるとともに、地域社会の人々の健康と安全および環境保全に万全を尽くすことが最も大切であり、その実践こそが真のグローバル企業のあるべき姿と考えています。2020 年の創業 100 周年に向けて、高砂香料グループはCSR 経営のレベル向上に邁進してまいります。今後もステークホルダーの皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

研究者たちが描く2050年の香料の世界、持続可能な社会に向けたチャレンジ。

「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という企業理念に沿って、高砂香料グループは常に一歩先を見据えながら香料の可能性を広げています。その原動力である若手研究者が10年先あるいはその先の未来に向けてどのような想いで研究活動を行っているのか。そして持続可能な社会づくりのために行うべきことは？自らもフレーバーの研究開発に携わった経歴を持つ桝村社長と語り合いました。

代表取締役社長
桝村 聡

司会：研究所は世の中の少し先を読んで仕事をする部署であり、皆さんは社会の大きな流れや環境の変化をキャッチするアンテナを立てていると思います。そこで近未来の2050年までに、どのような研究を行い、どんな製品を世に出したいかお話しいただき、桝村社長と意見を交わしていただきます。また、事業を通じて社会に何らかの形で環境負荷などの影響を及ぼしていることは十分に自覚されていると思いますが、どのように対応し、持続可能性につなげていくのか話し合っていただきたいと思います。

■ CO_2 を原料に製品を開発できたら製造業の未来が変わる

青木：私はファインケミカル分野で医薬品の研究に携わっています。病気に悩む人々の助けになる医薬品の合成の一翼を担うのは、社会に貢献する観点でも有意義な仕事だと考えています。グリーンケミストリー（環境にやさしい合成化学）の視点では、当社の触媒技術は、医薬品の製造工程のエネルギー消費量の軽減に貢献しています。ただ、材料に希少金属を使うため、より環境負荷の少ない触媒を追求するなら、酵素や無機触媒、汎用金属を使った触媒の研究が重要です。

一方で製品の製造段階が最も環境への負荷が大きいので、最近「フロー連続技術」を導入しました。これは従来に比べて電力消費を抑え、化学反応におけるエネルギー効率の向上や従業員の安全性向上にも寄与する技術です。今後、こうした取り組みを社員が共有し、環境への意識づけを高めていくことが重要だと思います。

桝村：化学合成で製品をつくるというと環境負荷のイメージがありますが、当社の触媒は全体の製造プロセスを短くする、効率良く行うという点で原料の調達も含めてお客様の環境負荷を減らしています。希少金属については今後さらに取り組みを進めていかねばなりません。今後も単に新しいケミカル製品を合成するだけでなく、高い目標を持って原料の産出から廃棄段階まで負荷を減らすことを考えて研究活動に取り組まないといけないですね。

吉成：私はフレーバー研究所の一員として、お客様である食品会社の要望に的確に応える香料開発を通じて、全世界のお客様から信頼されるベストパートナーになる夢があります。香料の開発者は、幅広い食経験を積み重ねながら多様化する食の流行やニーズをキャッチし、最適の香りを調合技術で表現する力が求められます。そのため日頃から食に関する知識を幅広く吸収し、お客様が思い描くおいしさを形にすることに努めています。

環境問題については、当社のオレンジフレーバーは、果汁を搾った後の果皮から抽出したオイルを原料に製造しています。食べられる物を香料の原料にすると食糧との原料

ファインケミカル研究所
青木 邦衛

競合の問題が生じますが、オレンジフレーバーの場合は、むしろ資源の有効利用に貢献しています。一方で、生産品の中で廃棄物の排出量が多いのがフレーバー製造工程です。主にコーヒーエキス製造時に出る食品残さ（カス）、在庫となった食品香料などです。コーヒーカスは再生エネルギーとしてバイオマスボイラーの燃料に、エキス抽出の際に使ったエタノールは蒸留して再利用しています。ただ、品質保持期限を超えた在庫は廃棄処分されるため、その量を減らすには製造量の最適化を図ると同時に、マーケティングや営業活動で最小化に努める他ありません。

桝村：フレーバーは、人々の生活の質を高める、おいしさの追求や香りを創るという意味で重要な役割を担っています。一方で、原料についてはなるべく再生可能なものを活用することも大切なので、素材をつくる人と研究所との連動、製造も含めた協調が大切です。この分野は「環境負荷」や「生活の質の向上」がキーワードであり、それを常に念頭に研究を進めていただきたいと思います。

池上：私はアロマイングリディエンツ研究所で、香料素材を開発しています。環境負荷をできる限り低減するため、リニューアブルな資源を活用した香料素材の開発、バイオ技術を使った製造プロセスの開発に取り組んでいます。化石原料は CO_2 濃度の上昇につながるので、バイオマス原料を積極的に利用し、カーボンニュートラル[※1]の考えに基づく開発を心がけています。 日本は 2050 年までに CO_2 排出量の 60-80% 削減を目標にしていますが、これを達成するには製造業の発想を劇的に変える必要があるかもしれません。今は低炭素社会を目指し、いかに CO_2 排出量を削減するかに注力していますが、今後は CO_2 をカーボン原料として積極的に利用する方向へシフトすることも考えられます。藻などの光合成生物を利用したバイオ燃料は、CO_2 を原料とする究極の環境調和型プロセスです。今ではバイオマスから香粧品素材などの物質も製造され、将来は CO_2 から作った香料が出現する可能性もあります。私はこのような環境調和型の生産技術等をいち早く研究開発に採り入れ、「ものづくり」を通して持続可能な社会に貢献していきたいと考えています。

司会：CO_2 から香料をつくれる実現性は高いのですか？

池上：実際、CO_2 から微量ながらリモネンという香料素材が生成されています。実用化には相当の時間がかかると思いますが、砂糖から香料素材が製造されるまでの開発期間を考えると遠い将来ではないかもしれません。

桝村：バイオ技術の話は、究極とは何かを考えながら研究していく方向性を示すものですね。ただ、他方では食品から素材を創っている事実もあるので、今後は大切な食糧資源と競合しないように、食糧以外の自然の原料から発酵技術などを活用して素材を開発していくべきだと思います。

※1　二酸化炭素の発生と固定を平衡して、地球上の二酸化炭素を一定量に保つという考え方

■ 天然原料は生態系の恵みであることを認識して配合する

中山：私はフレグランス研究所で香りを創る研究に携わり、日用品･化粧品メーカーのシャンプー、洗剤、芳香剤、化粧品などの製品に使用する香料を開発しています。研究のゴールは、製品に合った香りを創り、香りを通じてより豊かな生活を提供することです。今も、これからも多くの人々が満足し、喜んでいただける香りを創り続けることが、私にできる社会貢献であり、やりがいです。

グローバル化が進む中で、香りに期待される効果や役割も多様化し、香りの新しい機能とともに純粋に香りを楽しむ製品も増えています。もちろん、介護や医療現場での

フレグランス研究所
中山 優子

マスキング（消臭）などのニーズも増え、患者や介護者が明るく病気と向き合えるような香りなど、メンタル面における効果を積極的に活用する方向性も見えてきました。

桝村：フレグランスは、人々の生活の質を高める上で非常に大切な役割を持っていますので、病気や健康へ寄与する一方で、香りの機能の目的をきちんと見据えて開発していく必要があります。香料の本質的な機能は何百年前から基本的に変わっていません。多様な原料を混ぜ、より良い心地を創る。特にパヒューマー（調香師）の本質は不変ですね。原料をどう扱うかという課題はありますが、感性に訴える部分と実用的な機能として社会に役立つ部分の両方を見極めてやっていくべきでしょう。

分析研究所
菅原 俊二

中山：香料は最終的に環境に排出されますが、成分の中には分解されずに残留し、生態系を乱してしまうものもあります。また、天然由来の香料は良いというイメージがありますが、貴重な資源を消費している側面もあり、動植物の保護という視点では、香料原料採取は環境負荷をかけていると自覚し、リニューアブル（採取と再生の均衡がとれていること）を意識することが重要です。

近年はサステナブル（持続可能であること）という概念が定着し、バイオ技術などを駆使した石油由来でない香料原料の開発も注目されています。また、香粧品の香料業界では IFRA という自主規制があり、人体への安全性や環境への影響に配慮しています。その他にも例えばアレルゲン対応やエコサート認証などを考慮したさまざまな規制があります。このように日々変化する原料事情や規制に合わせて、多種多様な原料を取捨選択しながら環境に配慮した香りの創生に努めています。

■ 香りのビジネスは「生態系の恩恵」に支えられているのだから

菅原：分析研究所の役割の一つに、香気を分析して創香をバックアップする仕事があります。珍しい植物や花などの良い香りを捕集・分析し、フレグランス研究所が香りを再現し、香料をストーリーとともにお客様に提示し購入いただくわけです。

化学合成・調合の会社といっても原料の多くを天然物に依存しているので、香料ビジネスも生態系による恩恵を抜きには立ち行きません。私は植物の香気捕集活動がビジネスに付加価値を与え、同時に生態系や自然保護に目を向けていただくことに寄与していると考えています。以前、小笠原諸島で植物の香気捕集を行い、環境保護を考える視点を交えて社内報に寄稿しました。企業がフィールド活動する際、現地の方に最初は警戒されます。しかし、我々がどれだけ自然に敬意を払い、関心があるかを地域の人々に示すことで、思いがけない協力を得られることがあります。これは企業活動も同じで、グローバル企業が現地の人々や環境にどれだけ敬意を払うかでサポートも変わってくるのではないでしょうか。

桝村：なるほど。生態系の中で香料に限らず香りにどのような意味があり、どんな価値があるかをきちんと考えるべきであることを再認識させられます。香りを後世に残していくのも大事な仕事ですからね。ともすると珍しい花などを見つけて香りの収集だけに走りがちですが、礼節を持って地域社会と接しながら活動の必要性や価値を理解していただくことは、分析する人に限らず、香料会社としても非常に重要なことだと思います。

司会：香りというのは、データに変換できるのですか？

菅原：空気中には匂いの物質が含まれているので、それを捕集して分析機器で計測して化学物質の構成を調べます。最終的にはフレグランスやフレーバーの部署で、どんな物質が何gといった処方箋にします。仮に植物が絶滅してもデータが記録・保存されていれば、ある程度香りを再現できます。香りをデータで残せる技術を持った場所は限られており、絶滅に瀕した植物の香りのデータを残すのも香料会社の重要な役割だと考えています。

■ 新たな香りの機能で、超高齢社会の生活を心地良く快適に

小形：新事業開発研究所は、これまでお話に出た領域外の分野に取り組んでいます。2040 年頃には高齢者数がピークに達するといわれていますので、2025 年頃は今以上に高齢者向け商品が注目されているでしょう。例えば、通常の食事を摂れない人には、介護食・流動食がおいしく食べられるか否かが QOL（生活の質）を左右し、心身にも影響を及ぼします。現在行っている味覚・嗅覚受容体の研究をさらに発展させ、流動食の加熱滅菌で損なわれた風味を補ったり、栄養素由来の独特の飲食しにくい風味を香料でマスキングして飲食しやすくすることに役立てたいです。

以前、介護者の負担を軽減するため、静岡がんセンターと「病臭」の共同研究をしましたが、臭いの分析技術を活かした基盤研究は社会貢献に直結します。また、香りを嗅いだ時、人が生理的に、あるいは脳にどんな変化が起きるのかという研究も行っています。2025 年までには味や香りの入口である受容体研究とその出口である生理的な変化をつなげ、炭酸感やコク、エンハンス効果[※2]やマスキング

新事業開発研究所
小形 美穂

アロマイングリディエンツ研究所
池上 陽紀

効果など評価しづらいさまざまな感覚を科学的なアプローチで理解し、新しい切り口の製品開発につなげたいです。

桝村：分析機器の進歩もあって、受容体に近いもので香りを分析し、人間が嗅いでいるのと同じような形態を再現できる日もそんなに遠い将来ではない気がします。脳が匂いをどのように判断しているか解明された先に何があるのか。それが分かった時に、香りそのものが、ビジネスがどう変わっていくのか大変興味深い。ただ、脳の解明は難しく、目的に応じて大学や企業との協調が必要です。また、ストレスも大きな課題なので、香りでいかにそれを軽減できるかも重要なテーマです。

小形：実験や製造には廃棄物・エネルギー消費が必ず発生しますが、実験・製造の効率化が進めばこれらの負荷を減らせます。私たちは環境への負荷低減を考慮し、製品の合成プロセス改良を恒常的に行い、シミュレーションで効果的な分子設計をしたり物性値を予測しています。これにより調合・合成のトライ&エラーの回数を減らせるため廃棄物の削減にもつながります。

　また、受容体の研究によって微量の物質を合成するだけで各種のスクリーニングが可能になりました。こうした合成量の削減も廃棄物削減や省エネルギーにつながるといえます。

※2　ある感覚をより強く感じさせる効果

■ 変わらぬ価値観をベースに地域に密着した香料ビジネスを

司会：皆さん、分野の異なる研究者のお話を聞いて刺激を受けたようですが、いかがですか？

池上：菅原さんの資源枯渇の話とバイオ技術は関係が深く、植物由来の香料がなくなっていく、植物を育てるには時間がかかるという問題は十分に認識しています。砂糖からの香料採取も行われていますが、こうした技術が進展すると資源枯渇の防止に寄与できると思います。

菅原：私は受容体の研究と分析の領域はリンクしていくと思います。例えば、受容体を使って匂いをキャッチできれば、時間も手間もかかる分析業務を格段に効率化・客観化できるはずです。香りは機械による分析では限界があり、見つけにくい要素もあるので、「味センサー」みたいな機能が受容体でできたら楽しいと思います。

小形：中山さんの「天然の香料を使ったものは、貴重な資源を消費する贅沢なもの」という視点は新鮮で、限りある資源を環境にも人にも配慮するには、どのような研究をすればいいのか考えていきたいです。

吉成：日常業務では、生産という中間部分と廃棄物という出口ばかり考えていましたが、池上さんの原料を探す話を聞いていると、入口での配慮が非常に重要だと実感しました。今後は従来とは違う視点から社会貢献を考えたり、研究活動をしていきたいと思います。

菅原：仕事で環境負荷の低減を進めるには、日常生活から環境保護のセンスを養うことが重要です。普段環境に鈍感な人が、会社で環境に配慮した行動をとれるはずもありません。個人の思考は、会社とプライベートで分けることはできないので、個人の生活でも環境のことをどれだけ意識し、考えられるかが大切だと思います。

池上：「持続可能なものづくり」というキーワードを頻繁に耳にしますが、果たしてどれほどの企業が「真の持続可能なものづくり」を実践できているのか。原料から最終的な生産物のカーボンサイクルだけを見て「持続可能です」といっても、実際には原料を運ぶエネルギー消費量等まで把握しないと十分とはいえません。今回のダイアローグでの意見や視点を参考に、表面的な持続可能性ではなく、この言葉をもっと深く掘り下げて、それを実現するような研究開発ができたらと思います。

桝村：社会の価値観は常に変化しますが、その中で変わらぬものがあります。サステナブルというのは変わらない部分ではないでしょうか。だからこそ、昔から変わらないところを突き詰めていく必要があり、研究開発でもそこを深く探求していただきたい。我々は変化する価値観の中にあっても「根源的な香りの価値」を見出し、社会に貢献していきたいと考えます。また、世界には多種多様な地域がありますから、そこで香りに何が求められているのかを知ることが一番必要であり、地域に密着した香料ビジネスを追求していくことが持続的な発展につながると思います。

フレーバー研究所
吉成 利枝

TOPICS

あの日を忘れない！

高砂香料国内グループ拠点における「安全の日」活動報告

高砂香料グループでは、火災事故などの重大事故に対する再発防止の推進部門として、安全統括本部安全管理部を設置しております。社長自らが安全統括本部長を務め、安全意識の醸成と安全文化の確立を目指し、全従業員が一丸となって活動を継続しております。また、火災事故に対する記憶の風化を防止する目的で火災事故発生日である4月10日を「安全の日」と定め、安全に関する活動をグループ全体で行っております。2015年4月の活動の様子を一部紹介いたします。

配送センター

桝村社長の訓示映像、さらに平塚工場の火災映像、安全管理部活動報告などを視聴

磐田工場

新入社員への安全説明（消防水利・消火について）と被災経験がある取引先関係者を招いての安全講演を実施

南海果工

安全なフォークリフト／リーチリフトの運転操作や冷凍庫・冷蔵庫に閉じ込められた際の脱出訓練を実施

高砂香料本社

蒲田消防署の方々により、蘇生法・AEDの取り扱い・応急処置の技能を身につける「普通救命講習」を実施

安全活動推進のシンボルとしてモニュメントを設置

平塚工場での火災事故の記憶を風化させないため、火災現場から切出した鉄骨（大梁）を安全活動推進のシンボルとしてモニュメントを設置。桝村社長により、高砂香料グループ全社員にメッセージが発信されました。

平塚工場

火災の原因となる「静電気」の危険性と安全対策について近隣の企業関係者を招いて安全講演を実施

高砂フードプロダクツ

全体消火訓練後、地元袋井市消防隊員による講評、および各自衛消防隊隊長による反省会を実施

平塚研究所

職場単位での安全点検・安全ミーティングを実施

高砂スパイス 秦野工場

ブレーンストーミングを用いて一部従業員のヒヤリハット体験談を抽出し、意見交換後、改善策を協議

鹿島工場

工場内タンクヤードでの火災を想定し、消火訓練を従業員全員で実施

高砂ケミカル 掛川工場

新入社員を対象とした、消火器による消火訓練ならびに消火ホースを使用した放水を実施

高砂珈琲 磐田工場

高砂珈琲・高砂香料磐田2工場を含む近隣4社において防災無線訓練を実施

CSR
Management

CSR マネジメント

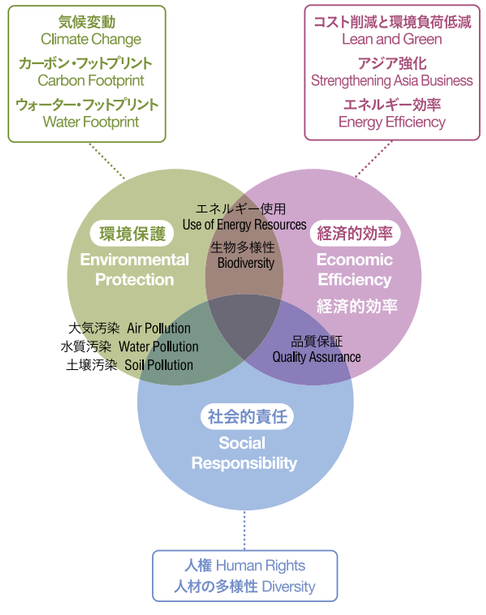
高砂香料グループは、「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を企業理念に、コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化などを通じて透明性の高い誠実な CSR 経営を目指していきます。

CSRビジョン

高砂香料グループは、地球環境に配慮し、社会に信頼される企業を目指して、未来を見据えた事業活動の推進を通じてより良い社会づくりに貢献していきます。

また、社会の公器として、企業活動の経済面、環境面、社会面という三つの側面でバランスの取れた経営を推進していきます。具体的には、産業廃棄物の削減やエネルギー効率の見直しなどで環境負荷を低減し、生物由来の原材料の保全に努めるとともに、多様な人材を活用するダイバーシティ・マネジメントなどに積極的に取り組んでいます。

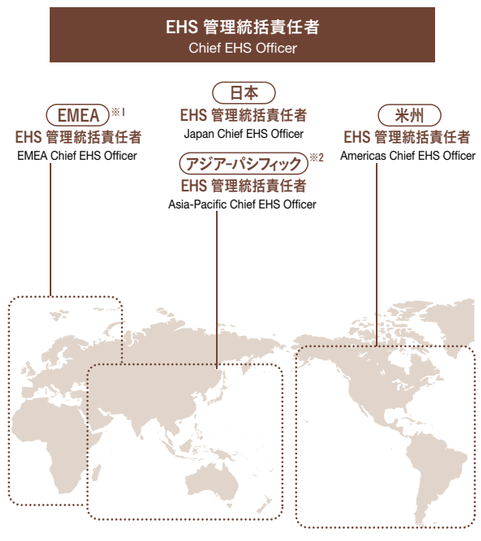
CSRビジョンの主な考え方



CSR推進のための組織

高砂香料グループでは、CSR ビジョンを実現するため、EHS 担当役員と日本・アジア - パシフィック・EMEA・米州の 4 極の EHS 管理統括責任者から構成される「グループ EHS 委員会」を設置しています。「グループ EHS 委員会」では、CSR にかかわる方針や戦略、活動内容を議論・決定し、持続可能な社会の実現に向けた CSR 活動をグローバルに展開していきます。またさらに、国内外すべての生産拠点にサイト EHS マネジャーを配置し、グループ内での環境・衛生および健康・安全面の活動の実践と強化を図っています。

世界4極 EHS管理統括体制図



※1 EMEA:ヨーロッパ、中東およびアフリカ (Europe, the Middle East, and Africa)
※2 アジア-パシフィック：アジア太平洋地域 (Asia Pacific)

本年 6 月より、EHS 担当役員に着任しました。2013 年に発生した平塚工場での火災事故以降、安全管理体制を強化し、安全文化の確立に取り組んでまいりました。今後も「安全は全てに優先する」の理念のもと、安全文化のさらなる醸成に努めてまいります。本年より、グループ EHS 中長期計画である EHS100 のフェーズIIIがスタートいたしました。目標達成を通じての高砂香料グループの発展とさらなる成長を目指して、積極的に課題に取り組んでいきたいと考えています。環境にやさしく持続的社会を支えられるものづくりを推進し、EHS 活動および社会貢献活動に注力していく所存です。

山形 達哉
高砂香料工業
取締役常務執行役員
EHS 担当

Voice

米州EHS管理統括責任者

Kevin J. Renskers,Ph.D.
Takasago International Corp.(U.S.A.)

The EHS-100 plan is the blueprint for Takasago's global Environmental Health and Safety program through our centennial in 2020. The EHS-100 plan contains 9 different categories, many of which are sub-divided into multiple tasks. The EHS-100 plan is being implemented in 4 phases, each 3 years long. The goal is to demonstrate progress in all categories during each phase. A recent review of Phase II, which was just completed, shows that Takasago/Americas made progress in most categories, and we are ready for more progress in Phase III.

EHS100 は、2020 年の高砂香料工業創業 100 周年に向けた環境、衛生、安全のグローバルプログラムの詳細計画です。EHS100 は 9 つのカテゴリに分かれており、その多くはさらにさまざまな任務に細分化されています。EHS100 は 1 フェーズが 3 年の計 4 フェーズで実施されています。目標は各フェーズで、すべてのカテゴリにおいて進歩があったことを示すことです。最近終了したフェーズ II のレビューで、米州は、ほぼすべてのカテゴリで進歩が見られ、フェーズ III でさらに進歩する準備ができていることが明らかになりました。

EMEA EHS 管理統括責任者

After getting the ISO 14001 certification for each EMEA production site, we started the phase II with a particular attention to the protection and promotion of sustainable resources. We have increased the use of renewable energies, reduced the pollutant emissions and promoted the use of recyclable packagings. The phase III will allow us to strengthen phase II results. However, our major challenge will consist to implement the OHSAS requirements. For this we will conduct audits and train further our employees in order to make every necessary effort to obtain the group certification.

EMEA の各生産サイトで ISO 14001 認証を取得後、私たちは特に持続可能な資源の保護と促進に重点を置いたフェーズ II を開始しました。再生可能エネルギーの利用を増やし、汚染物質の排出量を削減し、リサイクル包装材の使用を促進しています。フェーズ III では、フェーズ II よりもさらに良い結果を出すことができるでしょう。しかし今後の主な課題は、OHSAS※の要件を満たすことです。このために監査を実施し、さらに従業員の研修を行って、高砂香料グループが認証を取得するために必要なあらゆる活動を行っていきます。

※：Occupational Health and Safety Assessment Series の略。国際コンソーシアムによって策定された労働安全衛生に対するリスクと対策の一覧化および責任所在の明確化等を目的とする規格のこと。

Philippe Beauvais
Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.

アジア・パシフィック EHS 管理統括責任者

Yan HongMei
Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.

Sustainable development is global issue. Environment, health & safety protection is the key point for development as Flavor & Fragrance company. In recent years, more and more F&F factories in China have experienced unprecedented problem in manufacturing site, which has had serious impact on whole business development. Strengthening measures to improve environmental protection will be the only way to survive. I am glad to be the new Asia Pacific chief EHS officer and will continue to work with all AP staffs.

持続可能な開発はグローバルな問題です。香料企業の発展にとって、環境、健康、安全性を守ることはとても重要です。近年、中国の香料企業の生産現場では今までにない問題が増加し続けており、事業開発全体に深刻な影響が出ています。生き残るためには、環境保護対策を改善し、強化していくしかありません。私は新たにアジア・パシフィック EHS 管理統括責任者となったことをとてもうれしく思っています。これからもすべてのアジアパシフィックスタッフと協力していく所存です。

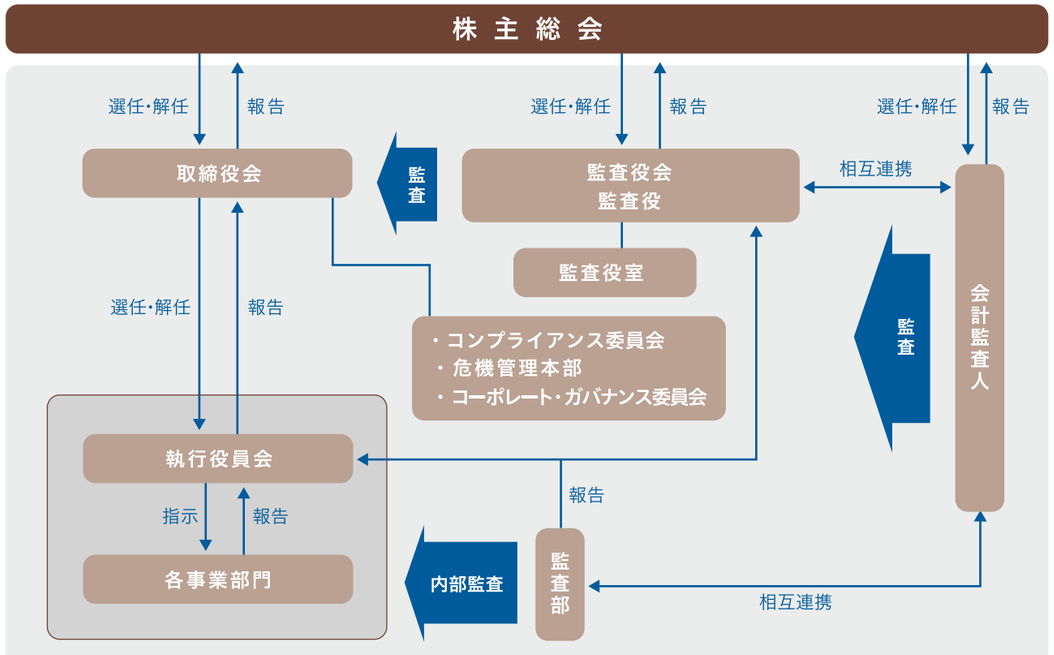
CSR マネジメント

コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆様から信頼され、評価される経営を目指す高砂香料グループは、経営判断の適正性、経営のチェック機能および情報開示による経営の透明性を高めることに努め、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会では「内部統制に関する基本方針」を定め、取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速性を確保するため、執行役員制を導入し、取締役会の企業統治機能と執行役員による業務執行の分化を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制委員会

業務監査を行う監査部を事務局とする「内部統制委員会」を設置し、内部統制の推進・実施および評価報告制度への対応などに取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス委員会

高砂香料グループの高度なコーポレート・ガバナンス体制の構築を目指し、高砂香料工業にコーポレート・ガバナンス委員会を設置しております。そこではコーポレート・ガバナンスに関する重要事項について必要な情報収集および対応策を審議・立案し、経営判断の効率化に寄与しております。

コンプライアンス体制

高砂香料グループでは、コンプライアンスを経営上の重要な課題と認識し、公正・適切な企業活動の展開やコーポレート・ガバナンスを充実させていく中で、体制の継続的な改善を図っています。企業憲章および行動規範で法令や社会規範の遵守を挙げるとともに、内部通報制度「明日への窓」を設置し、コンプライアンスに関連する制度や諸規程を整備しています。

また、監査部においては適正な業務運営に対する業務監査を、安全統括本部においては労働安全衛生、環境保全、保安防災に関する監査を実施し、それぞれ関連する法令への適合性を含めた監査を行っています。さらに、ISO14001 などのマネジメントシステムに対する外部審査を受審する際にも関連法令への遵守状況がチェックされています。（2014 年度国内 9 ヵ所、海外 8 ヵ所で、監査法人 SGS による審査を受審し、重大な法令違反はありませんでした）

■ コンプライアンス委員会

取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設け、重要事項を審議・立案・推進し、コンプライアンス体制の確立・遵法精神の徹底を図っています。

■ 内部通報制度

高砂香料工業では、従業員（出向者を含む）、パート従業員、関連会社の従業者など、当社の業務に従事するすべての者が利用できる相談窓口「明日への窓」を設置しています。職制や個人での解決が困難なコンプライアンスに関するさまざまな問題について、内部通報制度を通して倫理や法令の遵守を推進するよう努めています。

事例をもとにコンプライアンスを説明した社内報

BCP（事業継続計画）の強化

大規模災害や緊急事態などの発生リスクに備え、高砂香料グループでは BCP（事業継続計画）の策定および対策に取り組んでいます。

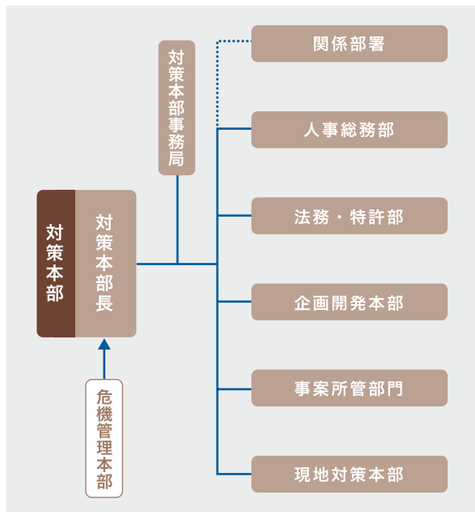
■ 東日本大震災・火災事故対応からの教訓

災害時における安定的な供給確保のため、特に初動から事業を継続していくための方針・行動計画について策定を進めています。国内外の製造体制を最適化し、信頼される商品の継続的な供給に努め、社会的責任を果たします。

■ 危機管理本部

平時より本社に「危機管理本部」を設置し、事業継続を妨げるあらゆる潜在リスクの発生に備えた危機管理計画書を策定しています。緊急時の影響を最小限にとどめ、早期に危機管理の目的を達成できる体制構築を推進しています。

危機管理体制図



高砂香料グループのEHS100（中長期計画）の取り組み

「EHS100（中長期計画）」はEHS宣言を達成していくための中長期計画で、
創立100周年にあたる2020年度までを3ヵ年ごと4期に区分して、取り組んでいます。
本計画は毎年見直しを行い、その内容を4月末に更新します。

大項目	小項目	活動内容	フェーズⅠ 2009年度～2011年度	評価	フェーズⅡ 2012年度～2014年度	フェーズⅠ未達分 評価	フェーズⅡ評価	フェーズⅢ 2015年度～2017年度	フェーズⅣ 2018年度～2020年度
EHS管理	EHSマネジャー	EHS管理の主責任者	国内外生産拠点にEHSマネジャーを設置	○	国内外非生産拠点にEHSマネジャーを設置		○	EHSマネジャー会議（毎年）	
	内部監査	監査専任者の選定	国内監査専任者の選定とレベルアップ	○	三極（アジア、欧州、米州）各々に監査組織を設置		△	グローバル監査会議（毎年）	
	マネジメントシステム（MS）	MSの第3者認証登録	国内外生産拠点でISO14001認証を取得	○	国内研究拠点へのISO14001認証拡大		×	国内外生産拠点でOHSAS認証を取得	国内研究拠点へのOHSAS認証拡大
	EHS監査	ISO14001相互監査（一年に一度）			TIC安全点検チームによる安全監査（対象：国内製造拠点及びR&D）（実施中）		○	TIC安全点検チームによる安全点検を海外生産拠点へ拡大	グローバルEHS監査システムの確立
遵法・自主管理活動	法定管理者	責任と権限の徹底	「資格制度」の構築	△	ISO14001グローバル統合認証取得により完了	△	△		
		法定管理者の一元管理	国内グループ会社の法定管理者に関する情報収集	○	グローバルグループ会社の法定管理者に関する情報収集（EHS管理統括責任者）		○		
	法的届出の適切な実施	法的届出のための管理手順	国内グループ会社の法的届出の情報収集	○	グローバルグループ会社の法的届出の情報収集（EHS管理統括責任者）		○	事故報告グローバルポータルサイトの創設	
環境課題対応	情報開示の改善	グローバル対応報告	グローバル環境報告	○	グローバルサステナビリティ報告（日英）		○		
地球温暖化対策・省資源活動	京都議定書への対応	地球温暖化対策法の遵守	前年比エネルギー効率2％削減活動の継続	△	2020年までに20％CO_2排出原単位削減（2010年基準）	△	△	2020年までに20％CO_2排出原単位削減（2010年基準）	2020年までに20％CO_2排出原単位削減（2010年基準）
					化成品製造拠点から生じる地球温暖化ガス（CO_2を除く）測定方法の開発		×	化成品製造拠点から生じる地球温暖化ガス（CO_2を除く）測定の実施	
			省エネルギーに配慮した設備の導入	○	再生可能エネルギーの導入（10％）		△	再生可能エネルギーの導入（30％）	再生可能エネルギーの導入（50％）
	水の使用量の削減	地下水汲み上げ量の削減	方法検討	△	水使用量の削減対策検討【日本】	△	○	水使用量の削減対策実施【日本】	河川放流排水の再利用（排水リサイクル設備の新設）【日本】
	容器・包装材料の3R	容器・包装材料の3Rのための活動	容器・包装材料のリサイクル化へのデータ収集・顧客アンケート	△	容器・包装材料のリサイクル化のための顧客へのお願い	×	△	容器・包装材料リサイクル化の実施	
化学物質管理	大気汚染物質	VOCの自主規制	VOC自主基準の決定とそれに基づく活動	△	VOCの決定（世界保健機関の規定より、ホルムアルデヒド、d-リモネン、トルエン、アセトン、エタノール、2-プロパノール、ヘキサナール）	△	△		
	法規	化学物質の安全管理						国際品質保証統括部	
	監視化学物質	自主規制「化学物質」の取扱い確立	社内「取扱い手順」の厳密化と運用	×	REACH対応	△	△		
大気・水質・土壌汚染対策	水質・土壌汚染防止	近隣地域との共生	自主的調査の実施	○	境界外流出「0」を保証する活動		△	境界外流出「0」を保証	
	非生産拠点の炭酸ガス排出量削減	販売部門での省エネルギー活動の実施	国内非生産拠点のCO_2排出量集計システムの構築	○	2020年までに20％CO_2総排出量削減【非生産拠点】（2010年基準）		△	2020年までに20％CO_2総排出量削減【非生産拠点】（2010年基準）	2020年までに20％CO_2総排出量削減【非生産拠点】（2010年基準）
	地下埋設設備	地下埋設タンクおよび配管の地上化	地下埋設設備に関する情報収集・分析	×	平塚、磐田、鹿島工場における地下埋設設備の地上化	×	△	国内グループ生産拠点の地下埋設設備の地上化実施	グローバル製造拠点における地下埋設設備の完全地上化
	水資源の有効利用	水使用量削減	前年比水使用量削減率：2％	×	2020年までに20％水消費原単位削減（2010年基準）	△	△	2020年までに20％水消費原単位削減（2010年基準）	2020年までに20％水消費原単位削減（2010年基準）
感覚公害・苦情処理	境界外への騒音・臭気の予防	自主基準	自主基準の作成	×	自主基準の作成	○	○	自主基準をすべての生産拠点に適応	
廃棄物管理	排出量削減プログラム	産業廃棄物再資源化100％の達成	排出量削減の基準づくり	○	国内生産拠点でゼロエミッション達成		△	海外生産拠点でゼロエミッション達成	全生産拠点にて、再資源化100％
		産業廃棄物の排出削減			2020年までに20％発生原単位削減（2010年基準）		△	2020年までに20％発生原単位削減（2010年基準）	2020年までに20％発生原単位削減（2010年基準）
	産業廃棄物の適切な処分を保証する手段対策	マニフェスト管理	委託業者管理要領の策定・運用（日本）	△	産業廃棄物処分に関する法令遵守の保証	○	○		
	産廃業者とのコミュニケーション	各工場全委託業者の把握	リサイクル・再資源化の確認・監視	○	委託業者の監査・管理体制の確立（定期監査100％実施）		△	リサイクル原料としての納入先の監査（海外含む）	業者の遵法性の監査・監督の実施
	有機溶剤排出量削減	改正VOC法（基準年：2000年）	トルエン排出量削減（2000年比30％削減）【日本・スペイン】	×	トルエン排出量削減（2000年比40％削減）【日本・スペイン】	×	×	トルエン排出量削減（2000年比50％削減）【日本・スペイン】	その他PRTR対象物質の排出量・移動量削減計画
		ハロゲン系有機溶剤（基準年：2000年）	塩化メチレン排出量削減（2000年比30％削減）【日本・スペイン】	×	塩化メチレン排出量削減（2000年比40％削減）【日本・スペイン】	×	×	塩化メチレン排出量削減（2000年比50％削減）【日本・スペイン】	
リスク管理および事故・緊急時対応	EHSリスク	リスクアセスメント	国内生産拠点の実施	○				リスクの特定と分析	リスクマネージメントシステムの確立
		洗い出し手順作成	優先順位とリスク低減措置検討	○	優先順位とリスク低減措置実施		○		
		危険有害作業および非定常作業の運用手順	危険有害作業の運用手順作成	△	非定常作業の運用手順作成	○	○		
	リスク分散	リスク管理対策のレベルアップ	リスクを考慮したCSR調達方針（コーポレート購買ポリシー）の作成（購買部）	×	CSR調達方針（コーポレート購買ポリシー）の履行確認	○	×		
製品・技術の開発	環境、安全衛生アセスメント	アセスメント規程作成	必要に応じ、コンサルタント導入	×	安全監査へのコンサルタントの導入	○	○		
		アセスメントの実施・結果の反映			日本実施		○	国内製造拠点で実施	海外展開
	ライフサイクルアセスメント（LCA）	LCAの導入・実施（特定の品目）	LCAの導入検討（研究主導）	△	LCAの導入	○	○	LCAの実施	
施設ならびに車両管理	施設の操作、維持管理	マニュアル整備	単体三工場	○	国内生産拠点		○	海外展開	
	施設の安全点検			○					
	人身事故	設備の安全・管理と教育・訓練	教育・訓練計画書	○					
	フォークリフト	教育・訓練		○					
	施設の設置及び更新	FMEAの導入			日本におけるFMEAの確立		○	TIC安全点検チームによるFMEAの導入（国内拠点）	TIC安全点検チームによる海外拠点へのFMEAの導入
地域社会との共生	地域社会とのコミュニケーション	責任者の設置	国内外に適応	×		○			
		地域社会とのふれあい	工場見学、社会見学などの企画・推進	○	地域貢献活動の導入検討		△		
	企業の社会貢献活動	募金活動			生産拠点のCO_2排出目標の未達量相当の寄付金		×		
	ボランティア活動	ボランティア休暇制度の積極活用	会社の側面支援	△	ソーシャルサービス制度の導入検討	△	×	ソーシャルサービス制度の実施	
基本的人権の尊重	児童労働	労働を禁止する最低年齢：16歳未満	グローバルグループ企業への徹底周知	○	グローバルグループ企業への周知徹底の継続		○		
	個人の尊重	差別の撤廃	人権教育の実施（人事部）	○	契約者とサプライヤーへの徹底周知		△		
	障がい者雇用	職場環境整備	障がい者雇用機会創出	○	バリアフリー化		△		
	取引先の判断	高砂香料サプライヤー行動規範	行動規範の和文・英文の作成（購買部）、取引先への配布	×		×			
教育・訓練活動	EHS教育の再構築	EHSにかかわる技能・知識水準の向上	人事部・高砂カレッジの活用	○				国内拠点におけるEHS教育システムの確立	e-learningを含めたEHS教育システムの確立（海外）
	EHS実地訓練	災害シミュレーション						緊急時手順の継続的改善	
	責任者・有資格者	計画的に育成	情報収集・解析（国内）	○	教育計画の作成と実施（担当部署）		△	EHSマネジャーの職務分掌及び要求事項の確立	
	新人への教育	修了証の発行	タイムリーに実施（新入社員研修等）	×		△		過去事例を元にした教育	

［評価基準］ ○・・・達成　△・・・一部達成　×・・・進捗なし

Social Report

社会性報告

高砂香料グループは、「社会の一員としてより良い社会を目指して、積極的に社会貢献活動に参加する」ことを企業憲章に掲げ、地域と共生しながら社会に貢献する取り組みを推進しています。

地域とのかかわり

地域コミュニケーションと社会貢献活動

高砂香料グループは、地域の方々と良好なコミュニケーションを図りながら、ボランティア活動や地域交流などに積極的に参加し、豊かな地域社会の構築に寄与していきます。

海外での取り組み

大学生の研修の訪問を受入

Takasago De Mexico S.A. De C.V.（メキシコ）は、2014 年 9 月、神奈川大学の教授と 10 名の学生の訪問を受けました。ラテンアメリカ諸国の日系企業の状況を学ぶことを目的とした研修旅行で約 1 時間半の質疑応答の後、研究棟および工場の見学を行いました。気候や民俗学的にも共通点が多い東南アジアとメキシコの香粧品日用品や食品の香りの嗜好が非常に似ていることに、興味を示していただきました。

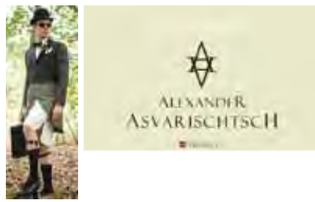
訪問時の様子

パリ・カレッジ・オブ・アートと パートナーシップを確立

Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.（フランス）は、1981 年にアメリカのパーソンズ美術大学のフランス校として設立されたパリ・カレッジ・オブ・アートとパートナーシップを確立し、ファッションおよび美術業界とのコラボレーションを続けていくことを決定しました。

学生向けに、香料の歴史やフレグランスの世界、フレグランス・ブリーフ（香水の設計図のようなもの）の作成方法などについて学ぶ香水コースを創設しました。年度末の学生によるファッションショーで発表されるデザインのアイデアに基づいたフレグランス・ブリーフを作成するフォローもしました。最も優秀なフレグランス・ブリーフを作成した学生のコレクションのテーマを表現した香水「NouveaU（ヌーボー）」を作成し、ファッションショーで発表されました。

高砂香料グループは「美しい香り」のエキスパートとして、美術関連各所とのパートナーシップにより、世界中の多様な価値観やデザイナーからの刺激を受け、業務に活かしています。



香水のラベル

国内での取り組み

平塚工場　自治会と合同で防災訓練

近隣の八幡地区自治会連合会役員と住民 35 名、隣接する老人ホームから1名の参加があり、合同訓練として「消火器取扱訓練」を実施しました。家庭用や泡・粉末等の消火器を使用して実際の火を消すことを自治会の方々にも体験していただきました。また、火災後の安全確保工事が完了している現場を見ていただきました。訓練終了後の自治会の方々を交えた振り返りでは、「火災事故後の安全管理は高く評価できる」「今日の訪問は大変有意義であった」等の意見をいただくことができ、高砂香料工業が進めている安全への取り組みへ理解を示してくださいました。

自治会との合同防災訓練の様子

京都国際現代芸術祭 2015 で「香りアート作品」に協力

京都国際現代芸術祭 2015 は、京都市内の各所で、さまざまなアート作品の展示やイベントが開催される京都最大規模の国際芸術祭です。高砂香料工業は京都嵯峨芸術大学のプロジェクト（Perfume Art Project）に協力し、香りの提供をしました。このプロジェクトは、京都嵯峨芸術大学とパリのエコールドボザールの学生約 20 名がアートを共同制作して公共空間に展示するもので、香りを素材とした空間・絵画作品が、京都市地下鉄駅構内、堀川団地 、宿泊型アートスペースなどに展示されました。

紅茶パックを使用した作品

梅の花をモチーフにした作品

愛知県安城市立東山中学校の企業訪問を受入れ

2015 年 6 月、安城市立東山中学校 3 年の生徒 5 名が高砂香料工業を来訪しました。これは毎年受け入れている、中学生の企業訪問学習の一環です。フレグランスマーケティング・CIMR 部からは “ 香りと香料 ” について説明をし、IR ／広報室が当社と企業活動について説明しました。実際に、香料の使われている製品（香水、シャンプー、ボディシャンプー）と、天然香料、合成香料の香りをかいだり、香りの歴史や香料会社での香りの開発について学びました。講義の後、コレクションギャラリーに展示してある天然香料や香水瓶を鑑賞しました。

「香りと香料」「高砂香料工業と企業活動」を説明

世界自然遺産「小笠原諸島」にて植物の香気捕集活動を実施

高砂香料グループは、小笠原諸島にて固有種をはじめとする植物の香気の調査を行いました。国立公園内や国有林内での活動にはさまざまな制約があり、一般企業や個人が許可なく足を踏み入れることはできません。今回、土地の所有者や管理者の許可を得て、小笠原で見られる植物の香気を高砂香料グループにて捕集・分析し、再現香料を作成しました。

近年、自然環境保護の問題がますます深刻化している中、「生物多様性ホットスポット」という概念が提唱され、日本も世界のホットスポットの一つに挙げられています。生物の多様性を維持するため、早急に保護対策を打ち出す必要がある場所ともいえるのです。

標本では残らない植物の香りの調査をする高砂香料グループの活動は「日本の植生の豊かさを世界に示すことができる一例」として多くの方々に、日本の自然の素晴らしさ、自然保護の大切さを実感していただけるものと思っています。

小笠原諸島の自然と固有種の植物

従業員とのかかわり

「従業員のゆとりと豊かさを実現するために、ひとりひとりの従業員を大切にし、安全で働きやすい職場環境を作る」ことを企業憲章に掲げ、働きやすい職場づくりや、従業員の安全と健康増進に努めています。

安定的な雇用を推進

高砂香料グループでは、ダイバーシティを尊重するとともに人材の育成に取り組み、安定的な雇用の創出を目指しています。

■ 雇用の状況

採用は人物本位で不透明なビジネスモデルに果敢に挑戦する人材を求め、現地主導のグローバルな採用活動にも積極的に取り組んでいます。また、経験や能力を発揮できる再雇用制度や、雇用の場の創出と定着を図る障がい者雇用制度を進めています。

働きやすい職場づくりを目指して

1. 自己都合退職比率：0.9%
2. 定年退職者の再雇用率：82.4%（対希望者：100%）
3. 障がい者雇用率：2.07%
4. 育児休業取得者復職率：100%
5. 時短勤務は小学3年終了まで1日1時間、30分単位で取得可能
   育児短時間勤務制度と併用すると5時間勤務が実現

2014年度報告（単体）

キャリア開発支援

個人の多様な欲求は価値観の充足を実現するため、高砂香料グループでは積極的に人材育成に取り組み、働きがいのある職場づくりを推進しています。

■ 通信教育制度の実施

自己啓発制度の一環として、通信教育を実施しています。語学をはじめ、財務分析や環境対応、マネジメントなど、従業員の知識向上やスキルアップ、資格取得のサポートとなる多くの講座を設定、自らが積極的に学べる機会を提供しています。

グローバル人事会議

事業のグローバル化を支援するため、海外グループ会社の人事担当者を集めてグローバル人事会議を開催しています。この会議を通じグローバル人事制度の構築、整備を進めています。グローバル人事制度を構築することにより世界各国で働くさまざまな国籍の社員に適材適所で活躍してもらうことを目指しています。

グローバル人事会議の参加者

人権尊重と差別の排除

高砂香料グループでは、国籍や性別、信条、社会的身分の他、障がい者差別、外国人差別などのあらゆる差別を決して許しません。中長期計画「EHS100」の「基本的人権の尊重」にて、児童労働、個人の尊重、障がい者雇用、取引先の判断への対応を明確にするとともに、具体的な活動として以下の取り組みを進めています。

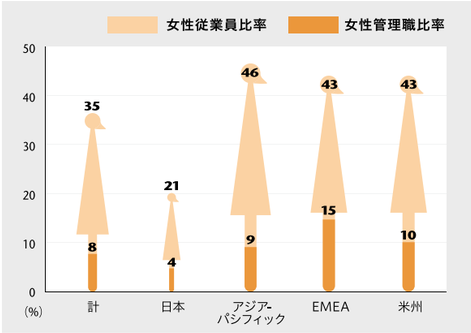
基本的人権の尊重

- 16歳未満の労働禁止
- 人権教育の実施
- 障がい者雇用機会創出
- 高砂香料サプライヤー行動規範の取引先への配布

ダイバーシティの推進

多様な人材が特性や個性をいかし、一人ひとりがいきいきと働くことができる職場環境づくりに取り組んでいます。女性管理職や外国人比率を増やしていくとともに、冊子・ウェブサイトによる啓発活動、勉強会などを実施していきます。

女性従業員比率と女性管理職比率



女性従業員比率＝女性社員数÷総社員数×100
女性管理職比率＝女性管理職数÷総社員数×100
対象年度：2014年度

ワークライフバランスへの配慮

仕事と生活の充実を目指し、高砂香料グループではワークライフバランスの実現に取り組んでいます。時間外労働の削減などにより労働時間の適正化を図るとともに、業務改善による効率の向上や、年次有給休暇の取得率の向上、リフレッシュ休暇やボランティア休暇による仕事と育児・介護の両立への支援を推進しています。

また、本社、研究所では、毎月第2・第3水曜日を「ノー残業デー」とし、継続的に運用しています。2014年度の有給休暇取得率は69.8%※でした。

※1人当たり年休取得数／1人当たり年休発生数

健康維持・増進を支援

高砂香料工業では、従業員の健康維持・増進のため、定期健康診断の他、ポータルサイトでの情報発信などを行っています。メンタルヘルス管理では、セルフチェックやラインケア、健康管理担当者および専門家によるケアを推奨するとともに、時間外労働が月50時間を超えた従業員には産業医との面談を設けています。

健康診断受診率（定期健康診断および人間ドック）

項目	単位	計	日本	アジア-パシフィック	EMEA	米州
対象者数	人	3,067	1,513	716	583	255
受診者数	人	2,664	1,508	616	285	255
受診者率	%	87	100	86	49	100

対象年度：2014年度

Voice

互いを尊重しあえる仕事環境と仲間に感謝しています
Thanks to the work environment and mutual respect among colleagues

求人広告にたまたま応募したのをきっかけに、2014年9月に高砂香料工業に入社し、人事総務部へ配属となりました。入社前は地方自治体の国際化にかかわる仕事に携わっていました。高砂香料工業では数少ない外国籍従業員の1人ではありますが、「外国籍従業員」としてではなく、「従業員の1人」として日々仕事をしています。確かに他の従業員と初めて会う時、相手が少しためらうこともありますが、顔が違う、考え方が違うというような相違点にとらわれず、個性を持った従業員であるという共通点を大事にする仕事環境が整っていると感じます。

私自身も、もっと知識と経験を積むとともに、自分の中にある多様性をさらに高砂香料工業のために活かせるよう努めていきます。

After responding to a job advertisement, I joined Takasago in September 2014 and was posted to the HR and General Affairs Division. My previous work dealt with the promotion of internationalization for local authorities in Japan.

At Takasago, I am one of few foreign staff members; however, I work not as a foreign staff member but simply as a staff member. Although I must admit that members of other divisions are often hesitant when I first meet them, in general the atmosphere of Takasago is one that is not caught up in focusing on differences such as in appearance or language but one that attaches importance to the commonality shared by each member. Namely, that he/she is an individual.

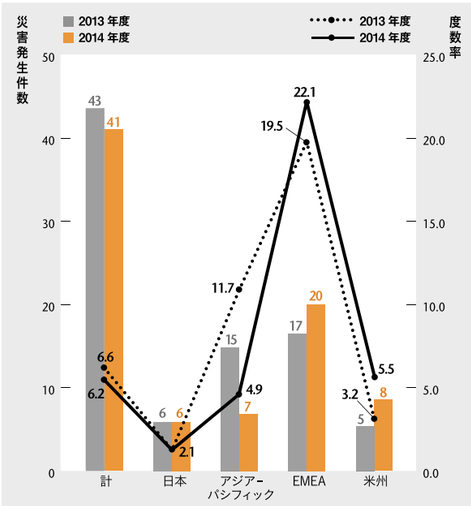
I look forward to using my diversity and individuality for Takasago as I grow in knowledge and experience here.

高砂香料工業
人事総務部
ボーバ スコット

従業員の安全と健康

高砂香料グループでは「5S・カイゼン活動」に取り組んでいる他、事業所ごとに「安全衛生委員会」を設置し、従業員の安全確保および心と体の健康を支援しています。労働災害については「EHS ガイドライン」を制定し、発生防止に努めています。2014 年度の労働災害発生件数はグローバルグループ全体で 41 件、度数率 6.2 でした。今後とも業務時における安全強化に努めていきます。

労働災害集計



※度数率：休業1日以上を要する災害発生件数 ÷ 延べ実労働時間数 × 1,000,000
度数率は高砂香料グループの製造事業所および研究所全社員および派遣社員を含む（交通事故は除外する）。

AED 講習会を実施

2015 年 4 月、本社ビル従業員を対象に AED 講習会を実施しました。これにより多くの従業員が AED の使い方を習得し、万が一の際の人命救助に役立てます。

AED 講習会の様子

Voice

グローバルに活躍できる機会を与えられ、スキルアップにつながっています
Opening doors to global activities enriches expertise.

私はマダガスカルに育ち、2001 年にフランスの大学を卒業後、高砂香料工業の研究開発部門へ研修生として入社しました。アロマサイエンス関連業務では FR グローバルプロジェクトに従事し、2006 年はシンガポールにて業務を担当しました。

日本へ戻った後は香料素材の研究に従事し、2009 年からは海外拠点のサポート業務に就きました。

素晴らしい環境の中で私のスキルは向上し、高砂香料工業の文化に対する理解も深めることができました。

2013 年からはドイツにてグローバルコーディネーターとして天然バニラの生産管理業務を担当し、新設されたマダガスカルとモロッコ拠点を主にサポートしています。このような国際的な環境で活躍できることを大変嬉しく思っています。

Native from Madagascar and finishing my university education in France, in 2001 I joined Takasago Japan as a trainee. With my technical background I started at the Aroma Science and Technology lab and soon enough, the expertise acquired allowed to contribute to a Global project for fragrance, including 1 year of activity in Takasago Singapore in 2006. Back to Japan, I first continued in Advanced Materials and Technology Lab and in 2009 my career took a decisive global orientation as I became manager for promoting Global R&D projects, providing support to both Flavor and Fragrance GSPC and R&D affiliates. During these years in Japan, the R&D organization has provided the perfect structure to improve my skills in communicating in the Japanese environment and opening doors to absorb our Takasago culture. Since November 2013, I am in charge of a project related to sourcing Natural Vanilla from Germany as Global Coordinator.
My expertise finds direct applications to support integrations of newly created Takasago Madagascar and Morocco. Conscious of the rich and unique opportunities when integrating Takasago Japan, I hope to successfully continue my activities in a multi-cultural network.

Takasago Europe GmbH
Didier Lebret

お客様とのかかわり

飽くなき研究開発による高品質への追求、適正な情報開示やグローバルなサプライヤーとのパートナーシップの強化などに努め、信頼され続ける企業として成長していきます。

品質マネジメント

高砂香料グループでは、「コーポレート QC ポリシー」を設定し、国内・海外関連会社が一貫した品質理念のもとにお客様に満足いただける確かな品質をお届けすべく、日々努めております。

品質保証部は、生産部門や販売部門からの独立性を保つため、経営に直結した組織となっています。また各工場の品質保証室は指揮系統が本社品質保証部直轄の体制となっており、品質保証に対する公平性を確保しています。

国内・海外関連会社の活動として、製品カテゴリーに適した国際標準マネジメントシステムの認証取得を積極的に進めています。品質マネジメントシステム ISO9001:2008 は、国内では本社関連部署、フレグランス、ファインケミカルおよびアロマケミカル製造拠点、また海外製造拠点でも継続的に運用、食品安全マネジメントシステムについては国内外フレーバー製造関連主要拠点で GFSI 承認規格（FSSC22000/ISO22000 他）の認証を取得しています。

グローバルな品質保証体制として、各国品質保証部門を指揮する部署を組織しています。この組織では、各国規制や顧客規制などの法規情報および原料情報の一元管理、また組織内のフレグランス QC センターならびにフレーバー QC センターでは、国内外の高砂香料グループの試験検査手法および技能レベルの標準化を推進しています。

このような活動を効果的に運用することにより品質・サービスの高度化を推進し、グローバルパートナーとしてお客様のビジネスをサポートします。

研究開発

研究開発は、高砂香料グループの技術立脚の精神を支える事業活動の柱です。社会が求めるフレーバー、フレグランスや医薬中間体を創出することで、カスタマーファーストを実現するとともに、社会全体の生活の質の向上を目指していきます。

■ 4 事業活動を通じてお客様に貢献

高砂香料グループの事業は、「フレーバー事業」「フレグランス事業」「アロマイングリディエンツ事業」「ファインケミカル事業」の 4 事業で構成されます。平塚研究所では、合成技術や分析技術、新事業につながる基盤技術などの研究を行い、高品質な製品開発はもとより、環境に配慮しつつ社会全体の満足度を高める製品開発を支えています。

Voice

LCA で自社製品の評価を実施し、環境と人にやさしい企業に

LCA[※1]は、一つの製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法です。EHS100 フェーズ Ⅰ、Ⅱ で LCA 導入の検討～導入という目標設定を受け新事業開発研究所プロセス開発部 磐田開発室が主に LCA 導入の役割を担っています。ステークホルダーから L-Menthol の地球温暖化に寄与する CO_2 排出量調査の要請も有り、現在までに、L-Menthol や L-Menthol 製造工程での枝分け製品および下流製品のほとんどについて LCA あるいは LCIA[※2]までを実施しました。さらにその他磐田工場製造品や医薬中間体の LCA も開始しています。自社製品の評価を行うことにより、製造にかかわるどのユニットが環境に重大な影響を及ぼしているのかが明確となるため、製品の環境改善余地の特定を理論的に確認することができます。経営基本方針の「地球環境に配慮し、地域社会を大切にした、世界の人々から共感を得られる企業を目指す」を進めるため、「持続可能な発展」を推進していきます。

※ 1：Life Cycle Assessment for Environment の略
※ 2：Life Cycle Impact Assessment for Environment の略

磐田研究
開発チーム

お取引先様とのかかわり

高砂香料グループの事業活動は、ステークホルダーであり事業のパートナーでもあるお取引先様に支えられています。これからも公平で良好な信頼関係を築き、お取引先様とともに発展していきます。

サプライチェーンマネジメント

高砂香料グループでは、サプライヤーとの強固で互恵的な関係が重要であると考え、調達における透明性、公平性を高めるためサプライチェーンのマネジメントを構築しています。高品質で、安全・安心な製品を確実に継続的に供給し続けるために、これからもサプライヤーと健全なパートナーシップの構築を推進していきます。

■ 調達における購買方針

グローバルな調達を進める高砂香料グループでは、サプライヤーと対等で公正な関係を築くため、「コーポレート購買ポリシー」を制定しています。これらは、国内の調達部員をはじめ、高砂グローバルの各拠点で購買業務に携わる全員に適応されます。

私たちは、世界の持続的な発展に貢献するため、実現し得る最も経済的な価格で、安全・安心そして信頼できる原料を調達します。それらの原料は、当社、顧客、産業界、品質、各国の法規制（それぞれの国の法律、安全に関した法令、そしてその他の必要な条件）すべてを満たすものです。

コーポレート購買ポリシー

購買活動において以下のことを実施します。

- **品質・コスト・安定供給の 3 つの要素を追求します。**
- **法令遵守を徹底し、人権の尊重、公正、公平な取引、環境保全に配慮致します。**
- **地域文化を尊重し、高砂香料グループとサプライヤーとのパートナーシップを築きます。**

高砂香料サプライヤー行動規範

高砂香料グループは、地球環境を重視し、社会に信頼される企業を目指して、より良い社会づくりに貢献していきます。

高砂香料グループは、持続可能社会、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等の社会的責任にも配慮するお取引先を尊重し、優先して調達します。

サプライヤーとのパートナーシップの構築

高砂香料グループでは、顧客への安定した品質、継続的な供給、および安心な製品を確実に供給し続けるため、サプライヤーとの良きパートナーシップの構築を推進しております。各サプライヤーには、企業の社会的責任を重視する当社のサプライチェーンに関する方針を理解いただき、信頼できるパートナーからの高品質な原料の安定的かつ確実な調達体制を維持していきます。

グリーン調達

また、「コーポレート購買ポリシー」には環境保全への配慮を掲げており、環境活動に積極的なサプライヤーからの調達を優先し、リニューアブルな資源を志向しています。この「高砂香料サプライヤー行動規範」は、Supplier Questionnaire（購入先調査書）等を通して取引先と共有され、実践を進めております。

Voice

サプライヤーとのパートナーシップ構築と関係強化の推進

私たちは、パートナーシップ構築のため、コミュニケーションを強化しています。新規サプライヤーの採用にあたっては、独自に設定した「サプライヤー評価マニュアル」に従った書類審査、面談などを経て採用、既存のサプライヤーに対しては定期的な訪問、オーディットを実施します。それらにより、お取引先様とのお互いの成長を目指しています。

高砂香料工業
調達部
今井 陽平

株主・投資家の皆様とのかかわり

健全かつ透明性の高い企業経営による安定的な成長で、株主の皆様に適切に利益を還元するとともに、国内外の株主・投資家の皆様と良好なコミュニケーションを図っていきます。

IR 活動の実施

高砂香料グループでは、企業情報の適時・適切な開示を行い、広く社会に対して透明性を高めることを企業憲章に掲げ、積極的な情報開示に努めています。

■ IR 説明会

高砂香料グループでは、期末および第2四半期の決算発表後、および中期経営計画の公表時に投資家・アナリスト向けに説明会を開催し、IR ／広報室が窓口となり株主や投資家とのコミュニケーションの充実を図っております。個人株主の皆様には「株主通信」を発送し、IR サイトにおいて、関連資料やプレスリリース等を公開しており、高砂香料グループへの理解を深めていただけるよう IR 活動の向上に努めていきます。

投資家への決算説明会の様子

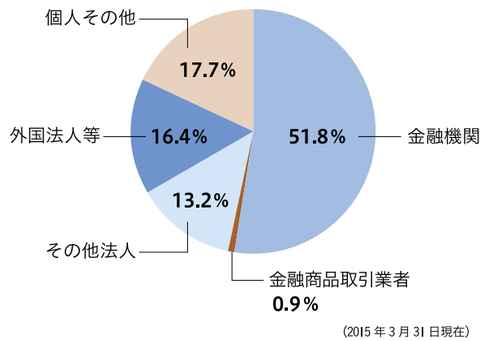
■ 株主分布・配当金の報告

高砂香料グループは、株主重視の経営を旨として、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、ならびに業績水準を勘案した配当を実施することを基本方針としています。

2015 年 3 月期の配当につきましては、配当の基本的な方針を踏まえ、中間配当は1株当たり4円、期末配当は1株当たり4円を実施し、年間8円の配当としています。内部留保金の使途につきましては、コア事業の拡大を目指した生産設備、研究開発、情報関連等の投資に充当するとともに、財務体質の強化に活用していきます。

株式分布図

所有者別構成比



（注）個人その他には、自己株式としての保有分（1.6%）が含まれています。

【株式併合および単元株式数の変更に関するお知らせ】
当社は、平成 27 年 10 月 1 日を効力発生日として、株式併合（5 株を 1 株に併合）および単元株式数の変更（1,000 株を 100 株に変更）を実施致しました。

Environmental Report

環境報告

高砂香料グループは、「地球環境に配慮し、地域社会を大切にした、世界の人々から共感を得られる企業を目指す」を経営基本方針に掲げ、事業を通じて環境への負荷を低減することに努めています。

環境ビジョン

持続可能な社会の実現を目指す高砂香料グループでは、「環境保護」「社会的責任」「経済的効率」をサステナビリティに掲げ、グループ一丸となって環境負荷の低減に取り組みます。

環境マネジメントシステム

高砂香料グループはこれまで、生産事業所ごとにISO 14001の認証を取得し、環境活動を展開してきました。近年の世界的な環境規制の強化に対応すべく、「EHS100」のフェーズⅠ（2009～2011年度）では「国内外生産拠点でISO14001認証を取得」を目標に掲げて取り組み、2011年12月にグローバル生産拠点におけるISO14001統合認証（認証登録番号：JP11/071135）を取得しました。

国内外に広がるサプライチェーンに即した環境マネジメントシステムの構築により、企業グループとしてのガバナンスの強化を実現するとともに、より効率的で実現性の高い環境活動を推進していきます。

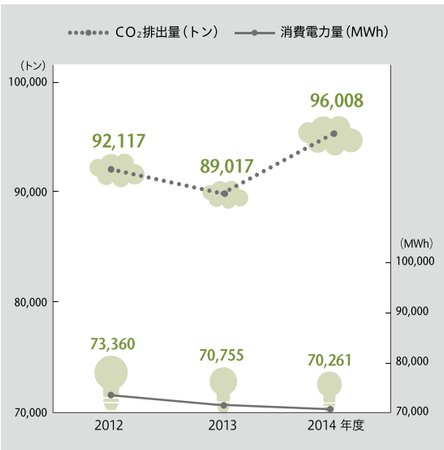
ISO14001 登録範囲状況

	登録範囲	
国内	高砂香料工業株式会社	EHS室
		平塚工場
		磐田工場
		鹿島工場
	高砂スパイス株式会社	秦野工場
	高砂珈琲株式会社	磐田工場
	株式会社高砂ケミカル	掛川工場
	高砂フードプロダクツ株式会社	
	南海果工株式会社	
海外	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L（フランス）	Factory
	Takasago International Corp. (U.S.A.)（アメリカ）	Flavor Factory
	Takasago International (Singapore) Pte., Ltd.（シンガポール）	
	Takasago De Mexico S.A. De C.V.（メキシコ）	
	Takasago Europe G.m.b.H.（ドイツ）	
	Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.（中国）	Pudong Factory
	Takasago International Chemicals (Europe) S.A.（スペイン）	
	Takasago International (Guangzhou) Co., Ltd.（中国）	
	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.（ブラジル）	

温暖化対策の推進

高砂香料グループでは、温室効果ガスを削減し、地球温暖化の防止に貢献すべく、事業活動に伴う CO_2 排出量の削減を推進しています。枯渇エネルギー由来の電力量の削減のため、再生可能エネルギー電力への転換を積極的に進めています。

消費電力量と CO_2 排出量の推移



※ 高砂香料グループを対象

■ Scope3 の算出

2012年度から“Corporate Value Chain（Scope 3）Accounting and Reporting Standard”に基づき、サプライチェーンの温室効果ガス排出量 Scope3 の算出を開始しました。

2014年度では、温室効果ガス排出量に占める Scope3 の割合が98.3%と非常に大きいことがわかりました。Scope3の中でcat 4の排出量が多く、輸送手段の転換を図り削減活動に取り組んでいきます。今後も、算定範囲の拡大と算定値の精度の向上を目指していきます。

Scope3 各カテゴリの排出量

		CO_2 排出量 (t)	温室効果ガス総排出量に対する比率
cat 1	購入した製品・サービス	—	—
cat 2	資本財	—	—
cat 3	Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	—	—
cat 4	輸送、配送（上流）	5,283,725	98.09%
cat 5	事業から出る廃棄物	2,187	0.04%
cat 6	出張	2,941	0.05%
cat 7	雇用者の通勤	4,098	0.08%
cat 8	リース資産（上流）	—	—
cat 9	輸送、配送（下流）	—	—
cat 10	販売した製品の加工	—	—
cat 11	販売した製品の使用	—	—
cat 12	販売した製品の廃棄	—	—
cat 13	リース資産（下流）	—	—
cat 14	フランチャイズ	—	—
cat 15	投資	—	—
Scope 3 （総量）		5,292,951	98.26%
Scope 1		57,842	1.07%
Scope 2		35,979	0.67%
温室効果ガス総排出量		5,386,772	100.0%

対象範囲：高砂香料グループ （–）は算定方法検討中または対象外
対象年度：2014 年度

■ ハイブリッド車

グローバルグループの社用車（営業車）において、ハイブリッド車の導入を積極的に進めています。2014年度、ハイブリッド車比率は15%でした。

■ 環境低負荷型フォークリフト

グローバルグループの全生産拠点において、環境負荷の低いバッテリー式フォークリフトへの代替を進めています。2014年度、バッテリー式フォークリフト比率は82%でした。

環境低負荷型車両導入の推移

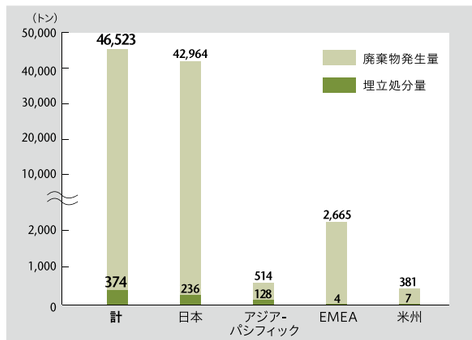
	車両の種類	2012	2013	2014 年度（台）
オフィス（社用車）	ガソリン・ディーゼル等	208	215	226
	ハイブリッド	39	41	39
工場（フォークリフト）	ガソリン・ディーゼル等	50	37	38
	LPG･天然ガス等	8	7	7
	電気	155	208	252

※ 高砂香料グループを対象

産業廃棄物の再資源化

廃棄物に関する考え方や規制は、国や地域により大きく異なります。未だ、分別収集およびゴミ分別がなされていない事業所があります。しかし、廃棄物の処理で一番費用がかかるのは物流であり、分別を進めるほど物流費がかかる、CO_2 を排出する、という面もあり分別の細分化が最良とは言えません。高砂香料グループでは、グループ全体で年間発生量の0.8%が最終的に埋立処理されていますが、マニフェスト制度が整っていない地域もあり、外部委託先の廃棄物の処理情報が不明確な場合もあります。今後は各事業所の委託業者に処理内容の開示を求め、より精度の高いデータを収集します。

埋立処分量



対象年度：2014 年度

化学物質の管理・排出削減

高砂香料グループでは、化学物質の適正管理および法規制への対応を強化し、使用量の削減を推進しています。また、事業活動で使用している化学物質の情報を「T-ReCS」※1 に集計し、管理することで削減に役立てています。

■ 国内での取り組み

高砂香料国内グループでは、SDS(化学物質等安全データシート）を用いて対象となる化学物質の情報を事前に提供するとともに、PRTR法※の対象となる化学物質は、法令に則って実態を把握し、報告を行っています。

高砂香料国内グループが 2014 年度に取り扱ったPRTR 対象化学物質は 39 品目で、大気排出量は 24.2 トン、公共水域への排出量は 3.0 トン、土壌中への排出量は 483kg でした。これからも排水処理システムの処理能力の向上、脱臭装置の設置などを進め、環境への排出量抑制に取り組んでいきます。

※ PRTR 法…Pollutant Release and Transfer Register の略。
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

■ 海外での取り組み

製品に含まれる化学物質の安全性や管理において、ヨーロッパをはじめ規制化が進んでいます。高砂香料グループでは、REACH 規制※への対応として取扱製品について予備登録を 2008 年までに完了しています。現在、一部の製品については本登録まで完了しており、残りの製品群についても各期限までに遅滞なく登録完了するよう、登録物質の選定と作業に取り組んでいます。

※ Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals の略。化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則

■ グリーン購入

高砂香料グループでは、可能な限り環境負荷が小さい製品やサービスを提供する事業者より優先して購入を行うグリーン購入※に取り組んでいます。

高砂香料国内グループの 2014 年度のグリーン購入率（金額比）の平均は、57.1% に達しています。2013 年度は、60.6%でグリーン購入率は減少しました。

※ グリーン購入とは、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入すること。

Voice

環境への負荷を低減するための STU のアプローチ
STU's approach to reduce the load on the environment

STU は環境への負荷を低減するために、社会的な説明責任を果たす努力を続けています。フレーバーとフレグランス工場の両方で、ほとんどの蛍光灯を LED に交換（70%の節電）することで、発電による汚染も低減しました。倉庫室の上部には空気清浄機を設置し、有害な化学品の廃棄物から発生する気体を削減しています。また、フレーバー工場には CIP（インライン洗浄）システムを設置し、従来の洗浄モードに比べて水の使用量 40%削減を達成しました。

We continue our efforts on social accountability in order to reduce the load on the Environment in STU .Most of the lamps in both Fragrance and Flavor workshop have already been replaced with LED in order to save energy (70% energy saving) and reduce electronic pollution.Air treatment facility has been installed on the top of storage room for dangerous chemical waste to reduce gas discharge. CIP(clean in place)system has been installed in Flavor workshop, compared with the traditional clean mode, it can reduce the 40% water consumption.

Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.
EHS マネジャー
Zhou Lingbin

事業活動における環境影響（マテリアルフロー）

インプット（投入） **INPUT** → **OUTPUT** アウトプット（排出）

エネルギー

電力	**77,377**	**MWh**	**760,111**	**GJ**
電力（枯渇性エネルギー）	70,261	MWh	690,657	GJ
電力（再生可能エネルギー）	7,116	MWh	69,454	GJ
燃料				
気体燃料			**1,067,334**	**GJ**
蒸気	42,282	t	43,128	GJ
都市ガス	14,129	m³	633,160	GJ
LPG	2,296	t	116,638	GJ
LNG	5,026	t	274,408	GJ
液体燃料	**1,858**	**kl**	**72,016**	**GJ**
A 重油	1,564	kl	61,158	GJ
軽油	132	kl	4,990	GJ
灯油	135	kl	4,968	GJ
ガソリン	26	kl	900	GJ
固体燃料	**0**	**t**	**0**	**GJ**
石油コークス	0	t	0	GJ
石炭	0	t	0	GJ
廃油（焼却量）	749	t	25,916	GJ
バイオマス（焼却量）	2,979	t	44,684	GJ
	合計		1,970,060	GJ

水資源

購入・汲上	3,173,043	m³

原料 t

原料	70,763
消耗品	8,985
包装材料	4,301

世界４極体制
日本
アジア-パシフィック
EMEA*
米州

*EMEA
（欧州、中東、アフリカ）

生産（製品）t
53,149

出荷

顧客

大気

CO_2	96,008	t		
NOx	12.5	t		
SOx	0.5	t		
ばいじん	1.8	t		
総廃水量			1,358,658	m³
BOD	91.1	mg/l	123.8	t
COD	163.7	mg/l	222.4	t
SS	16.5	mg/l	22.4	t

産業廃棄物

廃棄物等発生量	46,523	t		
再資源化量	9,329	t	20.1%	
工場内埋立量	0	t	0.0%	
外部埋立量	374	t	0.8%	
最終処分量	374	t	0.8%	

紙類の排出

総発生量	466,035	t		
再生処理委託量	410,667	t	88.1%	
燃えるごみ(最終処分)	55,368	t	11.9%	

対象期間：2014 年 4 月～2015 年 3 月

● T-ReCSの導入による環境データ管理 ※1
高砂香料グループでは、国内・海外拠点の各種環境データを集約し、管理する環境経営情報システム「T-ReCS（Takasago Responsible Care System)」を2010年に導入しました。

国内外製造拠点・事業所での社会貢献活動報告

高砂香料グループは、グローバルに社会貢献活動に取り組んでいます。
地域に根ざし、共存する企業市民として最新活動を報告します。

ブラジル（TBR）

Takasago Fragrãncias E Aromas Ltda.

次世代への支援、クリスマスの寄付など、積極的に地域活動を

Proactively being involved in community activities, e.g., supporting the next generation, giving Christmas donations, and others

若者のための実習生プログラム

2013 年に Takasago Brazil は、Takasago Vinhedo サイト近くのコミュニティを本拠地とする NGO 団体、Itacolomi と協力して、「若者のための実習生プログラム」を実施しました。目的は若者が労働者としての第一歩を踏み出せるよう、研修を行って準備をさせることです。今年は SESI（Social Service of Industry［産業社会サービス］）と協力して、無料で英語教室を開催し、参加者の新たな技能習得を支援しました。Itacolomi は、社会支援プログラムを必要としている 15 ～ 18 歳の若者に、芸術・文化・社会教育活動を行っています。具体的には彼らの生活に寄り添ってさまざまなサービスを提供する、家族やコミュニティの絆を深める、公共の初等教育を補う、実習生に初めての職場を提供することで家族が新たな収入を得られるようにするなど、多くの支援活動を行っています。

クリスマスの寄付

昨年の 12 月には、近隣の恵まれない子どもたちに服やおもちゃを寄付することを従業員全員にはたらきかけました。その結果、83 人の子どもたちがプレゼントを受け取り、彼らのクリスマスを特別なものにすることができました。 子どもたちは従業員に、プレゼントへの感謝を込め、メッセージを添えたカードを送ってくれました。

Young Apprentice Program

In 2013, Takasago Brazil implemented the Young Apprentice Program in association with the NGO Itacolomi, which is situated in the community near the Takasago Vinhedo site. Its' objective is to contribute to training, preparation and integration of young people into the labor market. This year Takasago Brazil, in a partnership with SESI, (Social Service of Industry) offered English classes for free, to encourage participants to develop new skills.

The Itacolomi conducts Arts, Culture and Social Education activities for teens 15-18 years old that are in need of Social Assistance programs. It provides assistance with configuring a service, living together, strengthening family and community links, complementing the elementary school and generating additional income to the families of these young apprentices through their first job.

Christmas Donation

Last December, all employees were invited to donate clothes and toys for kids that live in some of our poor areas. As a result of our actions, more than 83 children received a gift making their Christmas more special. The children responded to employees with a card of recognition, which included a message saying how thankful they were with this gesture.

クリスマスプレゼントを受け取って喜ぶ子どもたち

アメリカ（TAKUS）

Takasago International Corp. (U.S.A.)

お弁当を持参しランチ代を「Table to Table」へ寄付

Giving the current-2nd-highest subscription amount to the "Table to Table" group

TAKUS は、社会に貢献することの重要性を認識し、それが良き企業市民としての当社の責任であると考えています。今年 TAKUS は「Bag a Lunch, Help a Bunch（お弁当で社会に貢献）」プログラムを実施しました。これは TAKUS の従業員が1日、お弁当を持って出勤し、その分のランチ代を寄付するというものです。この活動で TAKUS は Table to Table（余剰している食品を集め、恵まれない人々に配給する活動をしている団体）に 1 万 24 ドルを寄付しましたが、これは 10 万 240 食分に相当します。 この活動で TAKUS は、2014 年およびこのプログラムの歴史上で 2 番目に貢献度の高い団体となりました。この活動により、2015 年は Table to Table の食事配給トラックに当社のロゴが表示されています。

Takasago/USA recognizes the importance of contributing to society, and believes it is our responsibility as a good corporate citizen. Again this year, TAKUS ran a program called "Bag a Lunch, Help a Bunch". TAKUS employees were asked to bring their lunch to work one day, and donate what they would normally spend going out for lunch. TAKUS raised US$10,024 for "Table to Table", which means we were able to fund 100,240 meals. This made TAKUS the second highest participating organization in 2014, and in the history of the program! As a result, our company logo is featured on Table to Table food delivery trucks for the coming year.

当社のロゴが表示されたトラック

メキシコ（TDM）

Takasago De Mexico S.A. De C.V.

地球環境保護と社会貢献活動は一企業人としての誇り

Global environment conservation and social action program of which we are proud as one corporate citizen

TDM は環境保護と社会貢献活動の一環として、昨年の7月5日に「シエラ・デ・グアダルーペ生態保護区」の森林再生のための重要なイベントに参加しました。さらに参加者は、家庭で実践できるゴミの削減やリサイクル方法を数多く展示しているリサイクル博物館も訪れました。TDM は自然や環境への意識を高め、家族の絆を深めるなど、社会の利益となるような活動に貢献していることを誇りに思っています。

As part of our environmental care and social contribution activities, last July 5th Takasago de México participated in a very significant event for reforestation of trees in the 'Sierra de Guadalupe Ecological Reserve'. TDM employees and their families joined the event organizer 'Ecocare', to plant trees in this ecological reserve located in the Estado de México. Additionally, participants visited the Museum of Recycling, which shows many initiatives that can be applied at home for reducing and recycling of waste. TDM is proud to contribute to promoting care and respect for nature and environmental awareness, for the benefit of society and strengthening family ties.

森林再生イベントに参加した従業員

森を育てるための植林

フランス（TEPL）

Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.

地域ボランティアなど、従業員の積極的な社会貢献活動を支援

Supporting the employee's proactive social action program, e.g., regional volunteer activity

ここ数年、TEPL は特に社会面や環境面に特別な注意を払ってきました。フェーズ II では香水の学校と協力して当社の施設に生徒を招待したり、スポーツイベントに参加してがん撲滅の資金を集めたり、環境を守るためのすぐれた取り組みについて従業員の研修を行うなどの活動をしました。

フェーズ III では、当社および当社の従業員と関係のある団体との提携関係を築いていく計画です。当社の目標は、環境および社会的な問題を解決するために、従業員が社会の変化を促す活動に積極的に参加したり、ボランティアとして働いたりできるよう、彼らの意識を高め、資金援助をすることです。

For some years, TEPL pays particular attention to social and environmental aspects.
During the Phase II, we collaborated with a Perfume School to provide visits of our facility, participated in sporting events to raise money to fight cancer and trained our employees in good practices to preserve our environment.
During that Phase III, TEPL will develop a partnership with associations involving our company and also our employees.
Our goal is to provide financial support and also increase awareness and to encourage our employees to become active agents of social change to participate to volunteer assignment missions responding to environmental and social aspects.

applied at home for reducing and recycling of waste. TDM is proud to contribute to promoting care and respect for nature and environmental awareness, for the benefit of society and strengthening family ties.

がん撲滅資金を集めるためスポーツイベントに参加

スペイン（TICSA）

Takasago International Chemicals (Europe) S.A.

エネルギー消費、廃棄物管理、水使用量など、周辺地域への説明を実施

Committing to the accountability to the neighbors for energy consumption, waste control, water consumption, etc.

ここ数年、TICSA はムルシアとその周辺地域にある大学、技術センター、公共機関との関係を強化してきました。2014 年には省庁を含む外部のさまざまな団体からの訪問を受け入れ、私たちがエネルギー消費、廃棄物、水の使用量を削減するためにどのような対策を取っているかを説明するなどして、当社の環境保護対策を示しました。また大学や技術センターといくつか契約を結び、学生に数カ月間、TICSA で働く機会を与え、環境と安全性に関するすぐれた実践方法を教えています。

In the last years we are strengthening our relationship with Universities, Technical Centers & Public Administration in Murcia Region and surrounding areas. In 2014 we attended several visits from different Organizations, as well as, from the Public Administration Ministers, where we showed our compromise with the Environment, explaining them the actions taken to reduce the energy consumption, waste material, and water consumption. We also signed several agreements with University & Technical Centers to give to the students the possibility to join Takasago several months as grand holders, teaching them in our good practices related to the Environment & Safety.

環境保護対策を訪問者に説明

中国（TIG）

Takasago International (Guangzhou) Co., Ltd.

老人ホームの訪問やローカル企業との交流でコミュニケーションを向上

Enhancing the communication with society via the offering of comfort to a nursing home and interchange with local corporations

地域の高齢者と交流

社会貢献活動の一環として、2014 年 9 月に、63 名入居の老人ホームを TIG 社員が訪問、果物等の差し入れや清掃等を行いました。入居の方々は、若い人との会話も少ないことから、非常に喜ばれ楽しい訪問となりました。

また、2015 年5月には高齢者宅3軒を訪問、差し入れをするとともに会話を楽しみました。

10 月にも高齢者宅訪問を予定しており、さらに社会貢献活動を進めていきたいと考えています。

5S・カイゼン活動

TIG における5S・カイゼン活動が近隣の企業に伝わり、数社の訪問見学がありました。また5S・カイゼン活動は行政にも伝わり、行政指導によって 18 社のローカル企業が TIG を訪れ、実際の5S・カイゼン活動の見学やディスカッションを行い、地域企業との有意義な交流をすることができました。

Providing Comfort to Senior People

As part of social contribution activities, in September 2014, the employees of TIG visited a retirement home where 63 senior citizens live, to present fruits, to clean the facility and to provide other services. Because the they rarely have occasions to chat with young people, they were very delighted and the visit was a joyous event.
In May 2015, we visited three houses of senior citizens to present gifts and to enjoy chats with them. Visits to the homes of senior citizens are also planned in next October. We will continuously undertake social contribution activities.

5S and Kaizen Activities

The 5S (seiri (sorting), seiton (setting in order), seiso (systematic cleanup), seiketsu (sanitizing), and shitsuke (sustainable discipline)) and Kaizen activities undertaken at TIG have become a topic item among companies around TIG and several of them have visited TIG for tours. The news of the 5S Kaizen activities of TIG has also spread to the local government. Eighteen local companies visited TIG at the suggestion of the local government. The personnel from these companies visited TIG for tours of and discussions on the 5S kaizen activities. The TIG personnel also had a meaningful occasion to interact with local corporations.

上：老人ホームでは入居者の皆さんと楽しい時間を共有
下：ローカル企業と 5S・カイゼン活動の会議を実施

シンガポール（TIS）

Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.

シンガポール赤十字社を通じ、被災地ネパールの支援と援助を実施

Assistance and support of the devastated area via Singapore Red Cross Society

TIS は、4月に発生したネパール大地震への義捐金集めにシンガポール赤十字社を通じて協力しました。集まった金額と同額を寄付し、シンガポール赤十字社はこの資金を被災した人々の緊急支援のため必要な物品を供給しました。

TIS has recently involved in helping to raise fund for the Nepal Earthquake disaster through Singapore Red Cross Society this year. The Company had matched every dollar of donation collected. The fund collected was donated thru the Singapore Red Cross Society who had started disbursing relief items and emergency supplies in response to the earthquake.

赤十字社よりの領収書の写し

高砂香料工業
平塚工場

自治会から約 30 名が参加し、従業員とともに合同防災訓練を実施

平塚工場は環境方針に挙げられている「当工場の立地条件と事業活動を考慮し、地域社会と協調共生を図る」を目指し、地域とのコミュニケーション、市内の環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

自治会との合同防災訓練

2013 年の火災事故により近隣住民の皆様に多大なご迷惑をおかけしました。信頼を取り戻す一環として、11 月に近隣自治会との合同防災訓練を行いました。自治会からは、約 30 名の参加があり、工場に対する関心の高さを実感するとともに、地域内で事業活動を継続する上で「安全」に対する責任の重さを改めて感じました。従業員による防災訓練を見学後に、実際の火を使った消火器訓練に参加していただきました。また、訓練後に伊藤工場長が香料の製造についての説明を行い、平塚工場を一層理解していただける良い機会になりました。

相模川現地調査・清掃・植栽活動

平塚市は相模川の河口部に位置し、河口付近の馬入ふれあい公園（通称お花畑）は市民の憩いの場となっています。平塚工場では、平塚地区環境対策協議会主催の相模川現地調査・清掃・植栽活動に継続的に参加しています。2014 年は 11 月 5 日に開催され、平塚工場から 8 名が参加しました。八幡小学校 3 年生の児童とチューリップの球根を植え、お花畑周辺の清掃を行いました。

上／自治会との合同防災訓練
左／八幡小学校の児童とチューリップ球根の植えつけ

高砂香料工業
鹿島工場

臭気パトロール、防災訓練、懇談会、清掃など工業団地連絡協議会に参画

鹿島工場は茨城県神栖市の波崎地区に位置しており、波崎連（波崎工業団地連絡協議会）に参画しさまざまな活動をしています。活動としては臭気パトロール、共同防災訓練、行政懇談会、工業団地一斉清掃など率先して参加しています。

臭気パトロールは毎月 2 回（2 社）にて輪番で行い、工業団地周辺を巡回し、結果は波崎連技術部会が神栖市へ報告しています。共同防災訓練においては毎年 1 回、輪番で訓練会社を設定し、実施しています。鹿島地方事務組合消防本部と連携し公設の消防隊、救急隊を要請し、鹿島工場としては波崎連応援隊として参加しています。7 年後には訓練会社として活動する予定で、その際には波崎連や消防本部との入念な確認が多々あり、しっかりとした準備が必要です。

行政懇談会においては、近隣住民の代表の方々とのコミュニケーションの場を作っています。波崎連各社において何を製造し、どのような物質を扱っているかなどを開示し、またその安全操業においても報告し理解をいただくよう配慮しています。

工業団地の一斉清掃は年 2 回実施し、各社の清掃エリアを決めて道路や緑地帯の清掃を行っています。また 5 S活動の一環としては鹿島工場独自の活動ですが工場正門前の公道、歩道や緑地帯の清掃と除草作業を社員全員で毎月の安全日に実施しています。

神栖市主体で行っている海岸清掃は高砂香料工業株式会社鹿島工場として団体で参加しています。市全体による大きな活動となったのは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災時に流れ着いたさまざまながれき類の清掃がきっかけで、以降毎年 7 月に実施しており、工場の有志者が集まり、参加しています。

工場正門前の清掃

高砂香料工業
磐田工場

有事に備え、近隣企業 5 社との連携をふまえた協議も開始

磐田工場では、地球環境への貢献として磐田市が推進する「磐田市まち美化パートナー制度」に加入しています。その活動として月 1 回の祝川の清掃や、年 1 回の地域企業と磐田市合同でのまち美化ウォークラリーへの参加などで地域の環境美化に努めています。

その他、産業廃棄物協会による環境美化・不法投棄廃棄物の回収活動や環境保全推進協議会の植樹作業、間伐作業にも積極的に参加し地下水資源や山林の保護に貢献しています。

災害対策として、近隣企業 5 社と連携を組み有事の際に助け合うことができるよう年数回の打合せも実施しています。緊急連絡網を作成し、いつでも連絡がとれる体制を構築しました。

また、近隣地域の中学校、高等学校などの職場体験や近隣団体などの工場見学などの受け入れも行っています。地域の方々に事業活動、環境安全への取り組みを理解していただくために大事なコミュニケーションの場だと考えています。

祝川の清掃と地域環境美化

高砂スパイス
秦野工場

地球温暖化防止のための「CO_2 削減 / ライトダウンキャンペーン」に賛同

高砂スパイスの EHS 活動は、高砂香料グループの EHS 宣言に基づき日々活動をしています。EHS 活動を地域・社会と協調して推進していくために「秦野地区産業廃棄物対策協議会」に加盟し、近隣工場との情報連携や研修会、講習会、不法投棄防止キャンペーン事業の撤去作業や清掃活動に参加しています。

社会貢献活動は積極的に参加することを心得、地元密着の活動も十分考慮し、毎月の安全日には、工場外周の清掃を実施しています。また、一昨年より秦野市が年 1 回主催する地球温暖化防止のための「CO_2 削減 / ライトダウンキャンペーン」に賛同し、参加しています。

2014 年度は、6 月 21 日から 7 月 7 日までの間、不必要な照明を消灯する「ライトダウン 2014」に参画し、そのうち 6 月 21 日【夏至】と 7 月 7 日【七夕】を特別実施日として 20 時から 22 時までの 2 時間消灯に全面協力しました。6 月 21 日は土曜日で非稼働日、7 月 7 日をノー残業デーで対応し、実施内容結果を秦野市環境保全課へ提出しました。

今年も参加し、さらに社会貢献できる活動を模索し取り組んでまいります。

工場外周の清掃

高砂フードプロダクツ

浅羽海岸の松林を再生し、白砂青松を取り戻すためのグリーンウェーブ活動に参加

高砂フードプロダクツは地域とともに発展する企業として、豊かな社会づくりのために以下のような社会貢献活動を行っています。

地域活動への参加として、袋井市が推進しているグリーンウェーブ活動に、2006 年より年 2 回参加しています。グリーンウェーブ活動は、松くい虫により枯れてしまった浅羽海岸の松林を再生させて白砂青松を取り戻し、貴重な緑の財産を次世代へと継承していくことを目的としています。2005 年から 5 年間かけて植樹された松林の下草刈りと周辺道路の草刈りが主な内容ですが、回を重ねるごとに参加者が増えており、従業員一人ひとりの環境保全に対する意識の高まりが感じられます。

その他に従業員がボランティア活動として地域消防団へ参加し、袋井市消防団長の協力要請により毎年数名が消防団員として登録されています。

グリーンウェーブ活動

高砂ケミカル
掛川工場

地域社会と歩む良き企業市民として、持続的に社会貢献活動を推進

高砂ケミカルでは、地域社会への貢献を軸として社会貢献活動を推進しています。具体的な活動としては安全日を活用し、工場周囲の清掃活動を従業員で行っています。その他にも周辺自治会主催の海岸クリーン作戦や掛川市主催の海岸防災林の植樹会、産廃協会主催の不法廃棄物の回収作業などに参加しています。また、地元団体主催の祭り・スポーツイベント・催事の際には協賛金寄付・駐車場貸与・お手伝いなど地域社会に密着した社会貢献活動に取り組んでいます。

工場は操業していく上で、地域社会と深いかかわり合いを持っているため、製品やサービスの提供・雇用など多くのものを供給していただき、初めて事業活動は成り立ちます。

地域社会を支え、地域社会と歩む良き企業市民・良き隣人としての役割を果たしていくためにも、高い志を持って持続的に活動するとともに、活動内容の継続的な向上に努めます。

今後も、良き企業市民としてさまざまな活動に積極的に参加していきます。

海岸防災林の植樹会

海岸クリーン作戦

高砂珈琲
磐田工場

今年で 8 年目を迎える「まち美化パートナー制度」への参画

高砂珈琲磐田工場では、磐田市が推進している「まち美化パートナー制度」に 2007 年より参画し、工場周辺の美化活動を定期的に実施する他、近隣企業 5 社と協働し、磐田市で実施する地元祭典後のまち美化ウォークラリーにも積極的に参加することで地域美化に努めています。

また、磐田市の地下水涵養事業として毎年行われている山間部での植樹および間伐作業へも参加して環境保護に貢献している他、ウミガメ放流や市有地の草刈りなどにも参加し、地域社会と協調しています。

事業活動にともない発生する原料生豆の包装に使われている麻袋は、環境にやさしい草抑えとして地元農家さんの畑などへ無償で配布しています。珈琲を抽出した後に発生するコーヒーかすの一部は、堆肥化施設へ売却し、出来上がった堆肥を購入し、近隣学校や NPO 施設などの緑化用堆肥として寄付しています。

その他、近隣小学生の社会見学の受け入れを行うなど、地域に貢献できる企業を目指してさまざまな活動を推進しています。

まち美化パートナーの全体清掃に参加

南海果工

地域を大切にする企業として、地域活動へ積極的に参加

南海果工は、社会的責任を自覚するとともに、環境法規制遵守および、ISO14001 の活動を通して産業廃棄物の削減（柑橘パルプの有効利用）に取り組んでいます。

また、地域活動の一環では「町内クリーン作戦」へ参加し、土生川堤防の草刈り、工場近辺のゴミ拾い、さらには地域の祭礼行事の際には寄付を実施するなど、地域と密着した、地域を大切にする企業となる努力を行っています。

その他、日高川町経営者懇話会へ参加し、日高川町役場、地域企業等との意見交換など交流を積極的に行っております。

和歌山県を代表する地場の果物を原料に使用した缶飲料など商品開発・販売を通して、和歌山県を他県に紹介できる取り組みを積極的に進めています。

高砂香料グループの「社会・環境報告書2014」に関するアンケート結果について

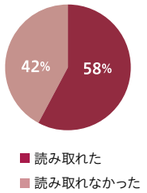
高砂香料では、2015年1月から3月までCSRモニターアンケートを実施し、回答数は451件、うち男性317名、女性134 名となりました。1 回答につき、100 円を高砂香料グループよりユニセフに寄付をいたしました。

WEB http://www.takasago.com/ja/aboutus/sustainability/ehs/pdf/takasago2014.pdf

Q1 「top message」～サステナブルな社会を実現するための取り組み、社会貢献活動など、企業方針について

◎企業姿勢に関する意見
- サステナブルな社会を実現するための取り組み、社会貢献活動などについて、良く伝わった。（男性、50 代、NGO・NPO の関係者）
- 香りがもたらす生活の豊かさのさらなる向上を目指し、日本のみならず世界に対し企業努力しようという姿勢を感じました。日本を代表する企業として頑張ってほしい。（女性、40 代、お客様）

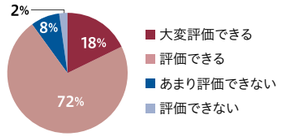
◎取り組みに関する意見
- 環境、衛生、安全活動の強化に取り組まれていること。地域社会に対する企業としての責任の重さを誠実に受け止め、改善・充実に取り組まれている姿を読み取ることができました。（男性、70 代以上、お客様）
- いかに環境に配慮した企業活動をしなければならないのかを考えていることがわかりました。（男性、40 代、政府・行政関係者）
- 高砂香料グループのサステナブルな社会を実現するための取り組み、社会貢献活動など、企業方針について読み取ることができました。（女性、40 代、企業・団体の環境担当）



Q2 特集～高砂香料国内グループの安全文化の確立に向けた「安全の日」の取り組みについて

- 過去の事例に鑑みて、組織一丸となって安全対策を進める点は、従業員のみならず、近隣住民および消費者としても企業への信頼に強く結びつくと感じ、高い防災意識が評価できると感じた。（男性、20 代、学生）
- 工場を操業する上で安全は何よりも優先され緊急事態が発生した時もスムーズに対応できるよう訓練やシミュレーションを積み重ねておくことの大切さが各工場で認識されていると思うが、各工場や部署を超えた横断的な取り組みを強化してほしい。（男性、30 代、お客様）
- 各取り組みに工夫は感じられるが、想定されるリスクに対して、どの工場でも同じように対応できるように基礎的な訓練は統一が必要ではないか？（女性、40 代、お客様）

● 取り組み内容について

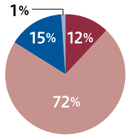


Q3 「VOICE（海外サイト EHS マネジャーの CSR 活動報告）」について

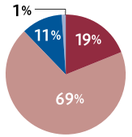
- 国により事情も異なる中、それぞれ高い意識で取り組んでいるダイバーシティ・マネジメントの重要性を感じた一方、各国の事情の違いもなるほどと思いました。国内外で「安全の日」への取り組みが展開できるようにがんばってください。（女性、50 代、一般の会社員）
- 地球環境に配慮し、社会に信頼される企業を目指して、未来を見据えた事業活動を推進している点に興味を得ました。また、原文を添付しているコメントにもリアリティを感じました。（男性、50 代、お客様）
- 環境汚染防止に限定せず資源の有効活用にも取り組み、一歩一歩前進することで従業員の意識の向上を目指し、少しでも社会に貢献できることを願っています、というコメントに関心した。（男性、20 代、お客様）

Q4 高砂香料グループの活動・取り組みについて

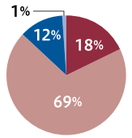
● CSR マネジメントについて



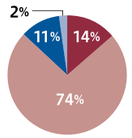
● 社会性報告について



● 環境報告について



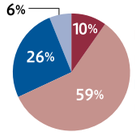
● 製造拠点・事業所での活動報告について



大変評価できる
評価できる
あまり評価できない
評価できない

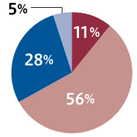
Q5 報告書について

● わかりやすさ



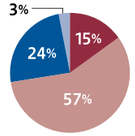
とてもわかりやすい
わかりやすい
ややわかりにくい
わかりにくい

● デザイン（レイアウト、文字の大きさ、イラスト、写真について）



とても見やすい
見やすい
やや見にくい
見にくい

● 情報量



多い
やや多い
やや少ない
少ない